

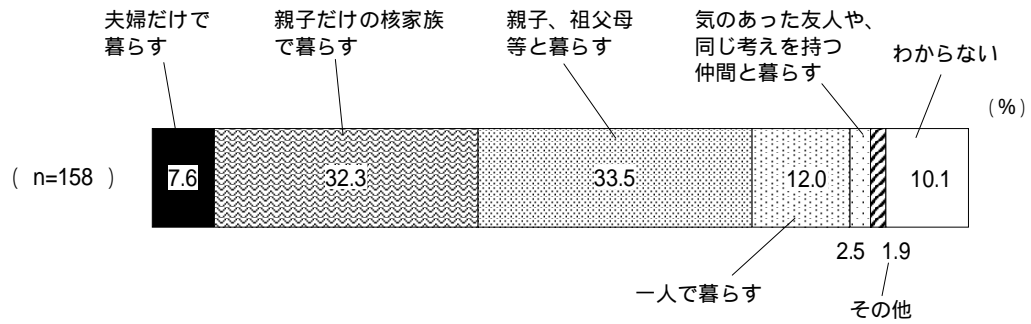
## **第3部 20歳代・30歳代市民**

# 第1章 家族・家族観

## 1 - 1 理想の家族形態

問7 あなたは、どのような家族形態でありたいと思いますか。( は1つだけ)

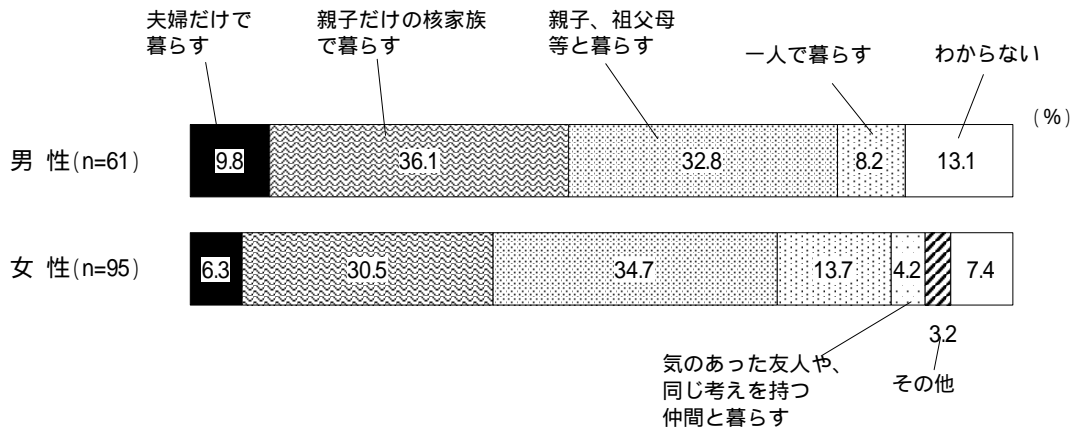
図1 - 1



理想の家族形態としては「親子、祖父母等と暮らす」(33.5%)と「親子だけの核家族で暮らす」(32.3%)の2項目に分かれている。

性別でも、この項目に集中する傾向は男女とも共通している。

図1 - 2 性別 理想の家族形態

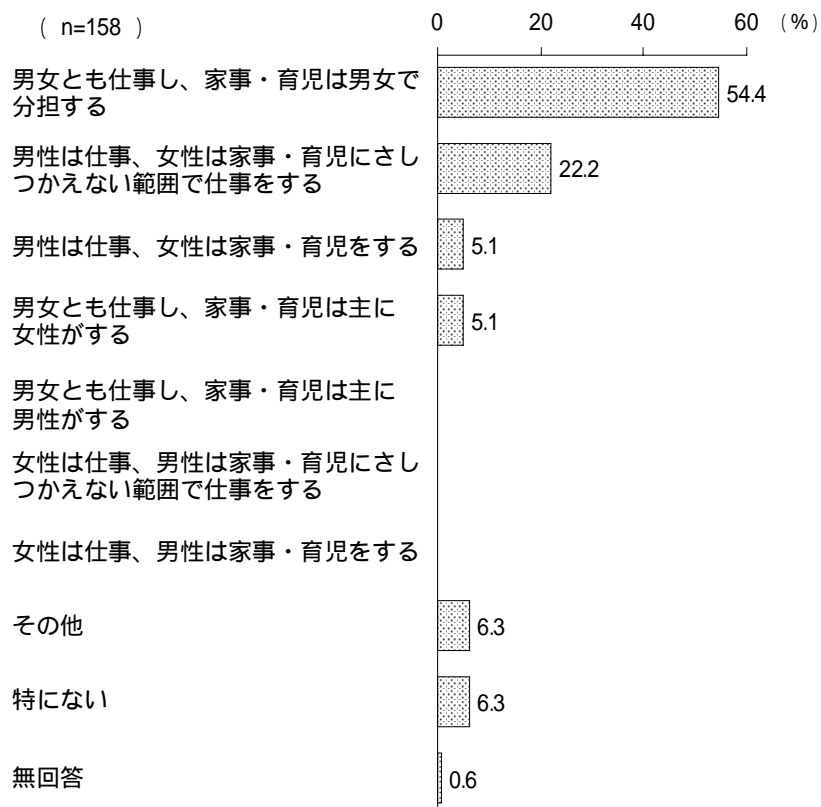


## 1 - 2 家庭における男女の役割

問 8 あなたは、家庭における男女の役割について、どうあるべきだと思いますか。

( は1つだけ)

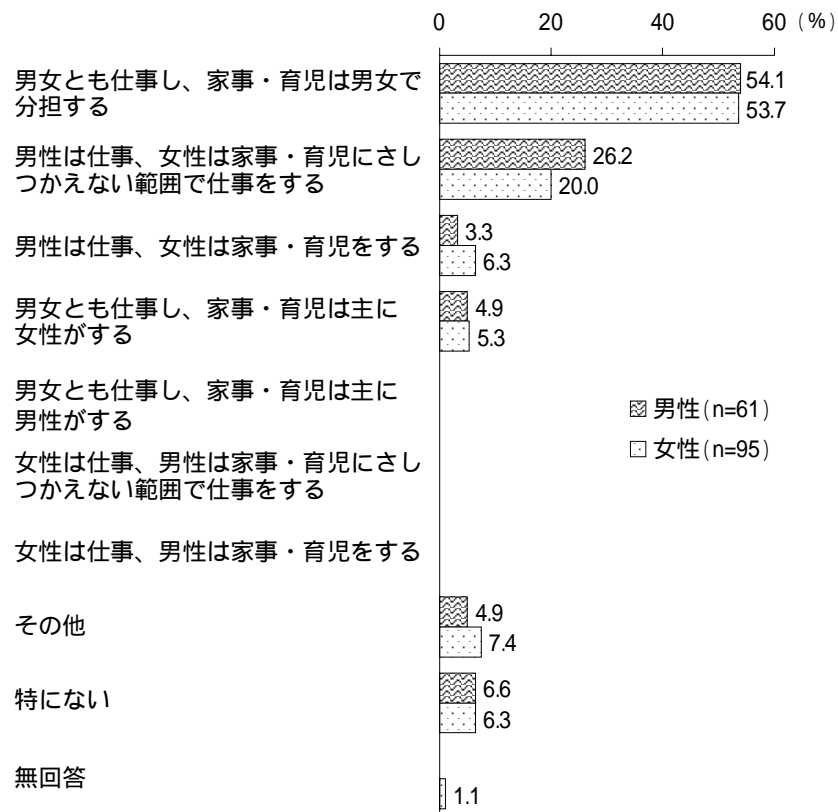
図 1 - 3



家庭における男女の理想の役割分担としては「男女とも仕事し、家事・育児は男女で分担する」が54.4%と過半数を占めている。また、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」という人も22.2%とかなり多くなっている。

性別でも、「男女とも仕事し、家事・育児は男女で分担する」が男性54.1%、女性53.7%と、男女とも過半数を占めている。

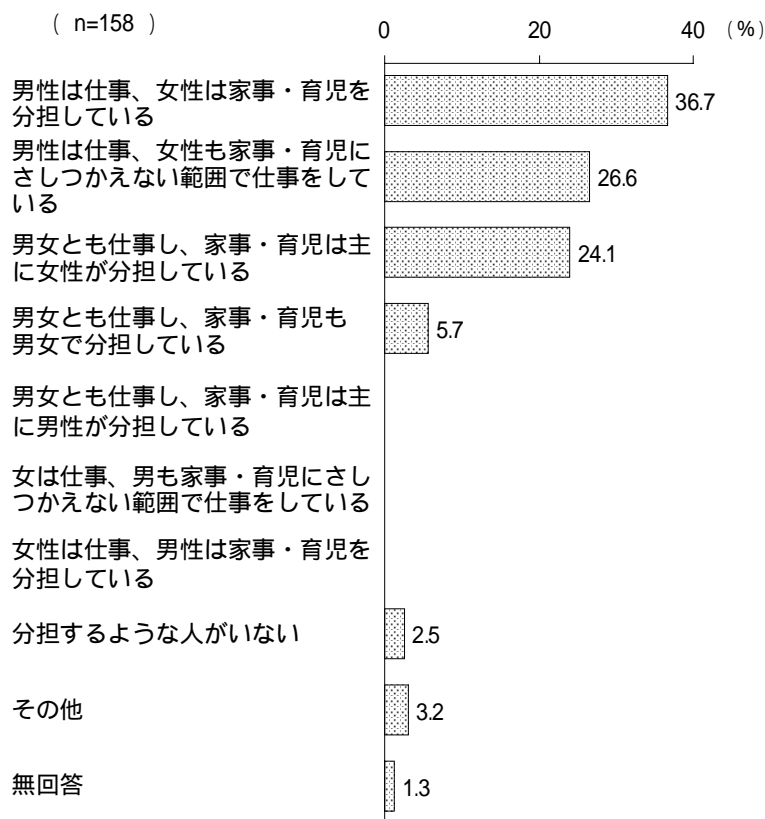
図 1 - 4 性別 家庭における男女の役割



1 - 3 実際の家庭での男女の役割

問9 では、実際に、あなたの育ってきたご家庭では、男女の役割はどのようになっていましたか。( は1つだけ)

図 1 - 5

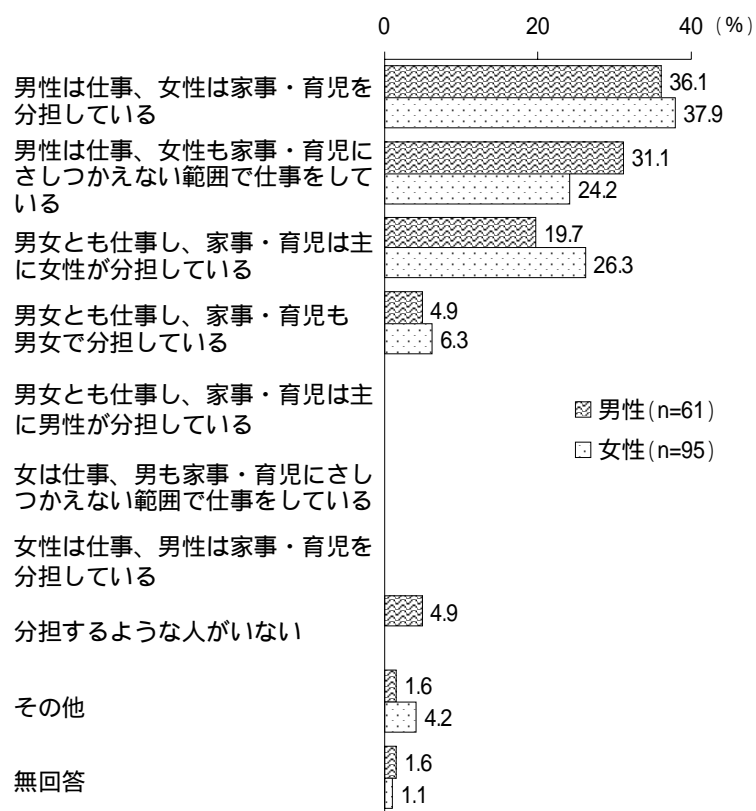


家庭での男女の実際の役割関係としては、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」が36.7%で最も多く、これに「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」(26.6%)と「男女とも仕事し、家事・育児は主に女性が分担している」(24.1%)が次いでいる。

一方、「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」は5.7%と極めて少なくなっている。

性別でも、こうした回答傾向は男女ともほぼ一致している。

図 1 - 6 性別 実際の家庭での男女の役割

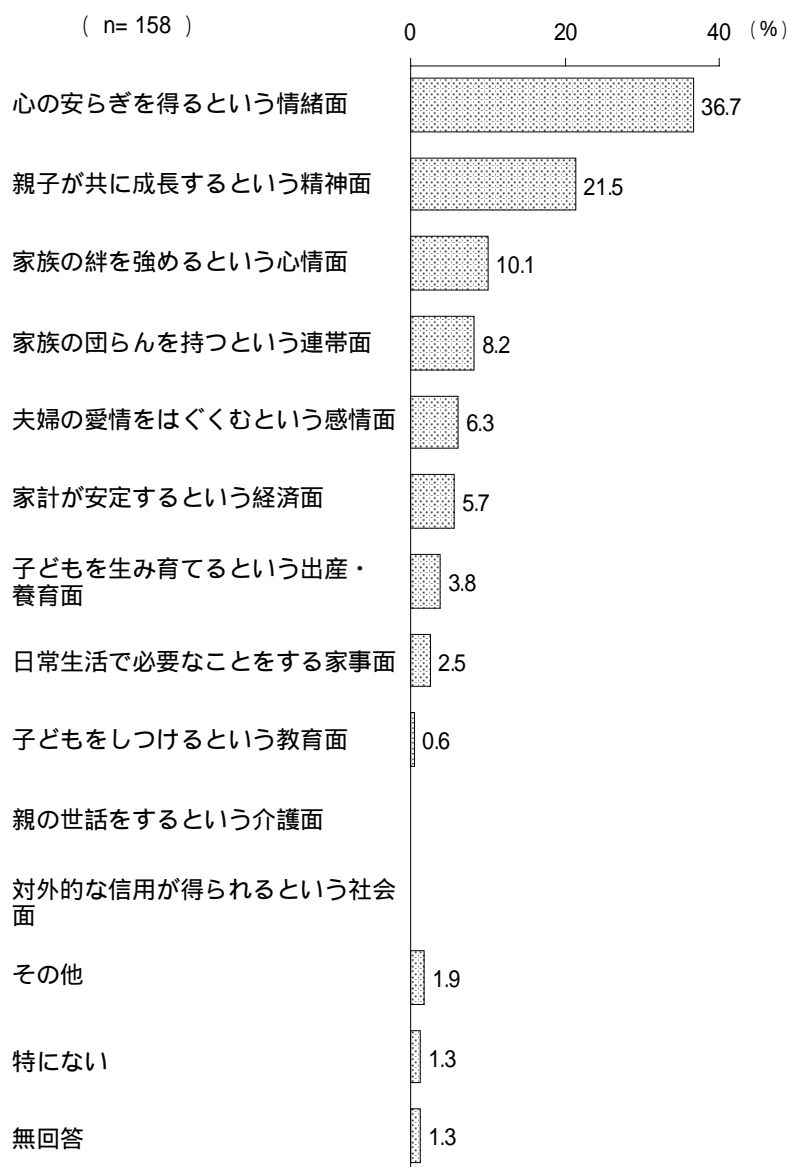


1 - 4 家庭の持つ機能や役割として最も重要だと思うもの

問10 家庭の持つ機能や役割として、あなたが最も重要だと思うものはなんですか。

( は1つだけ )

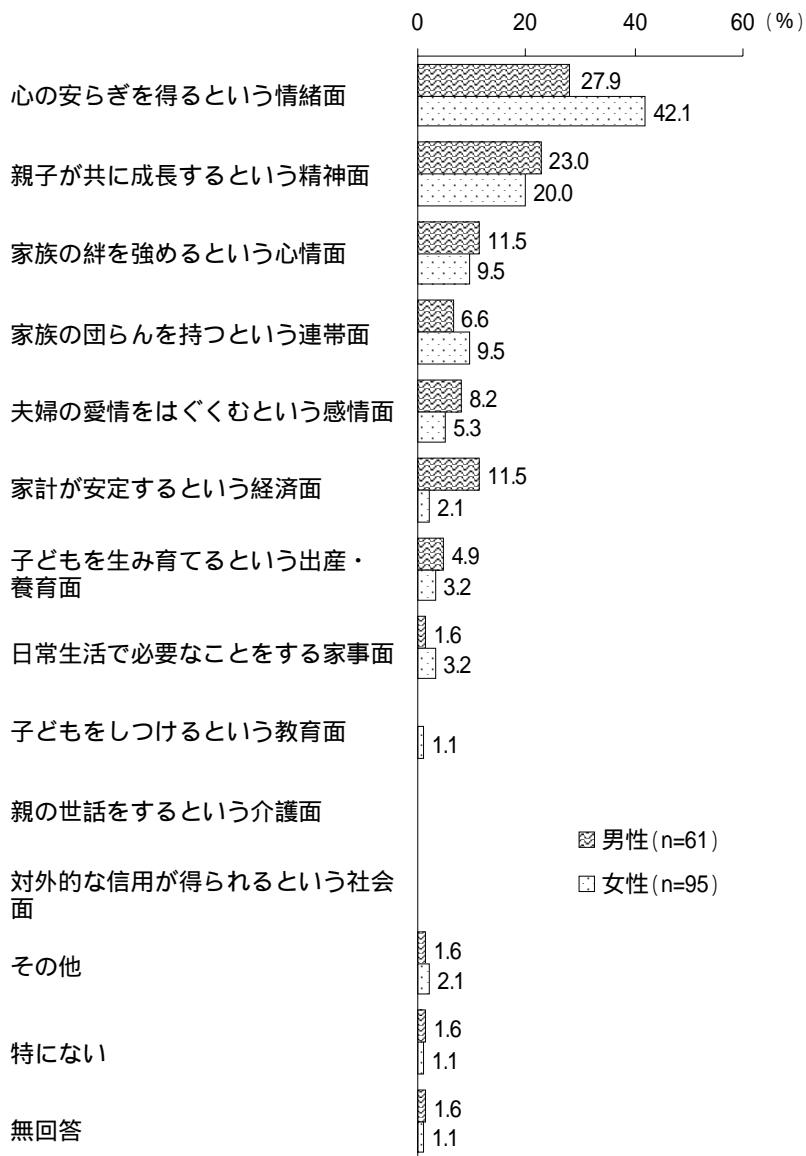
図 1 - 7



家族の持つ機能や役割として重要なものとしては「心の安らぎを得るという情緒面」が36.7%で最も多く、これに「親子が共に成長するという精神面」(21.5%)が次いでいる。

性別で見ると、女性では「心の安らぎを得るという情緒面」が42.1%と、男性（27.9%）を上回っている。

図1 - 8 性別 家庭の持つ機能や役割として最も重要だと思うもの

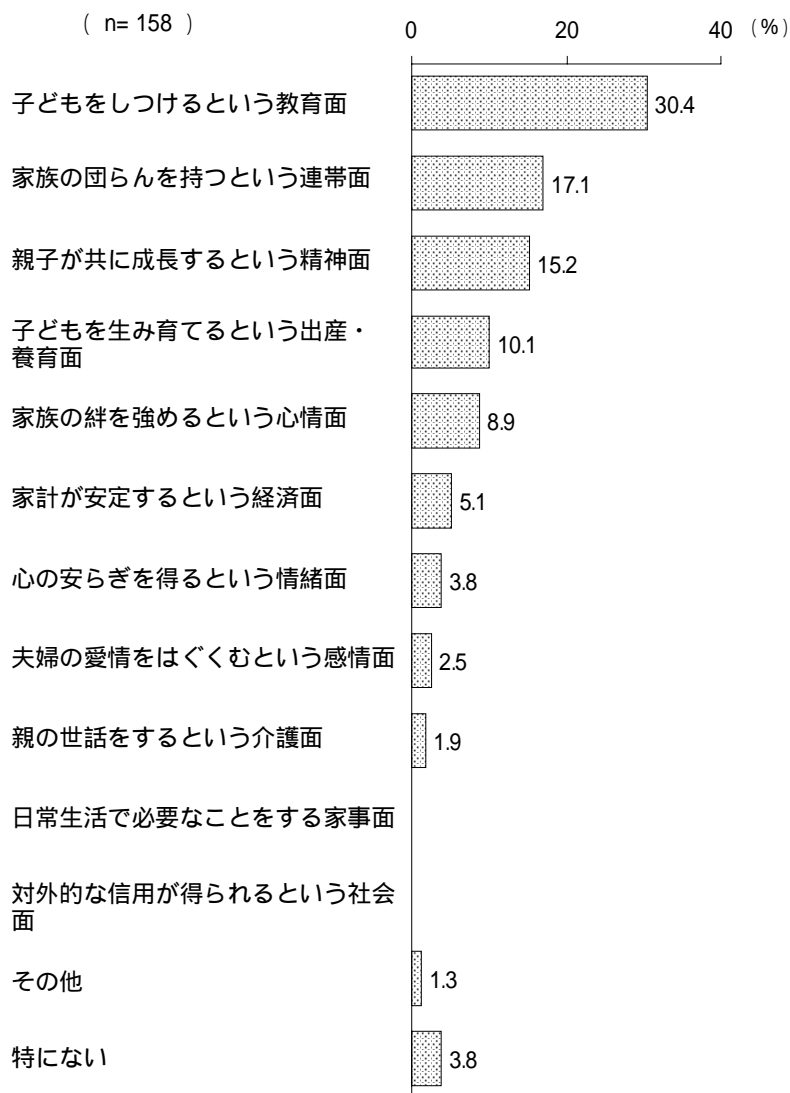




1 - 5 家庭の役割として、今の社会で最も低下していると思うこと

問11 あなたは、家庭の役割として、今の社会で最も低下していると思う面はどれだと思えますか。( は1つだけ)

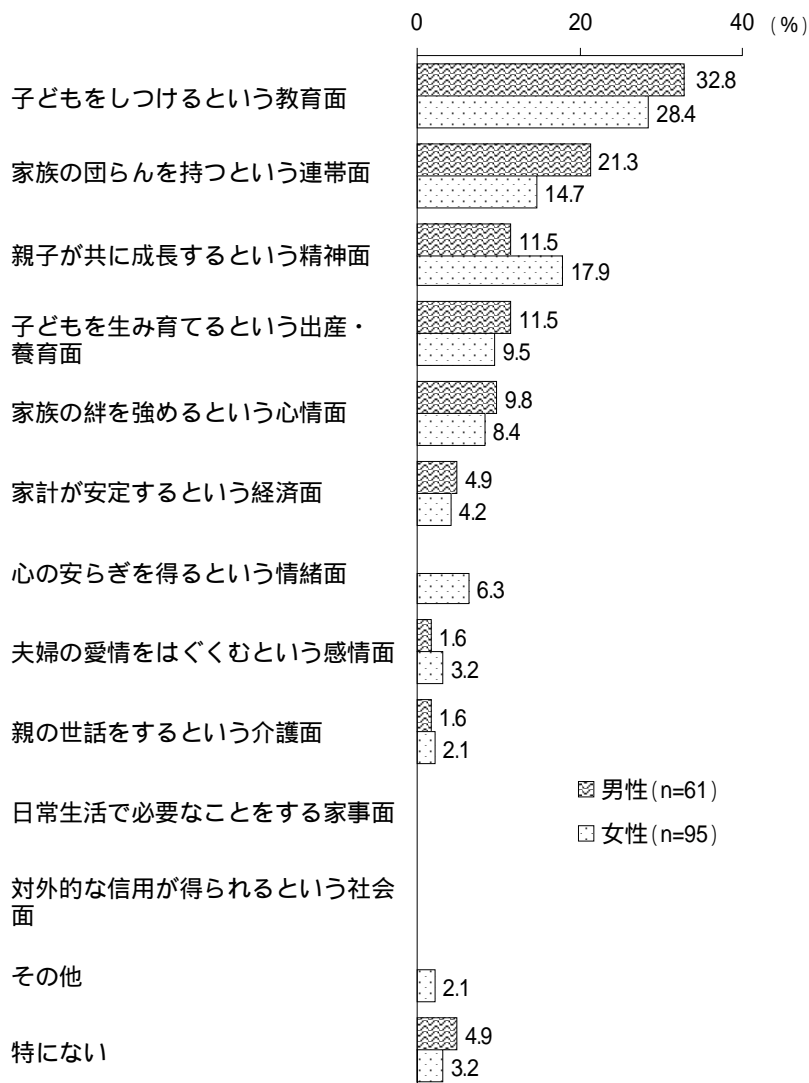
図 1 - 9



家庭の役割として社会で最も低下していると思う面としては「子どもをしつけという教育面」が30.4%で最も多く、これに「家族の団らんを持つという連帯面」(17.1%)、「親子が共に成長するという精神面」(15.2%)が次いでいる。

性別でみても、「子どもをしつけるという教育面」が男性32.8%、女性28.4%と、男女とも多くなっている。

図1 - 10 性別 家庭の役割として、今の社会で最も低下していると思うこと

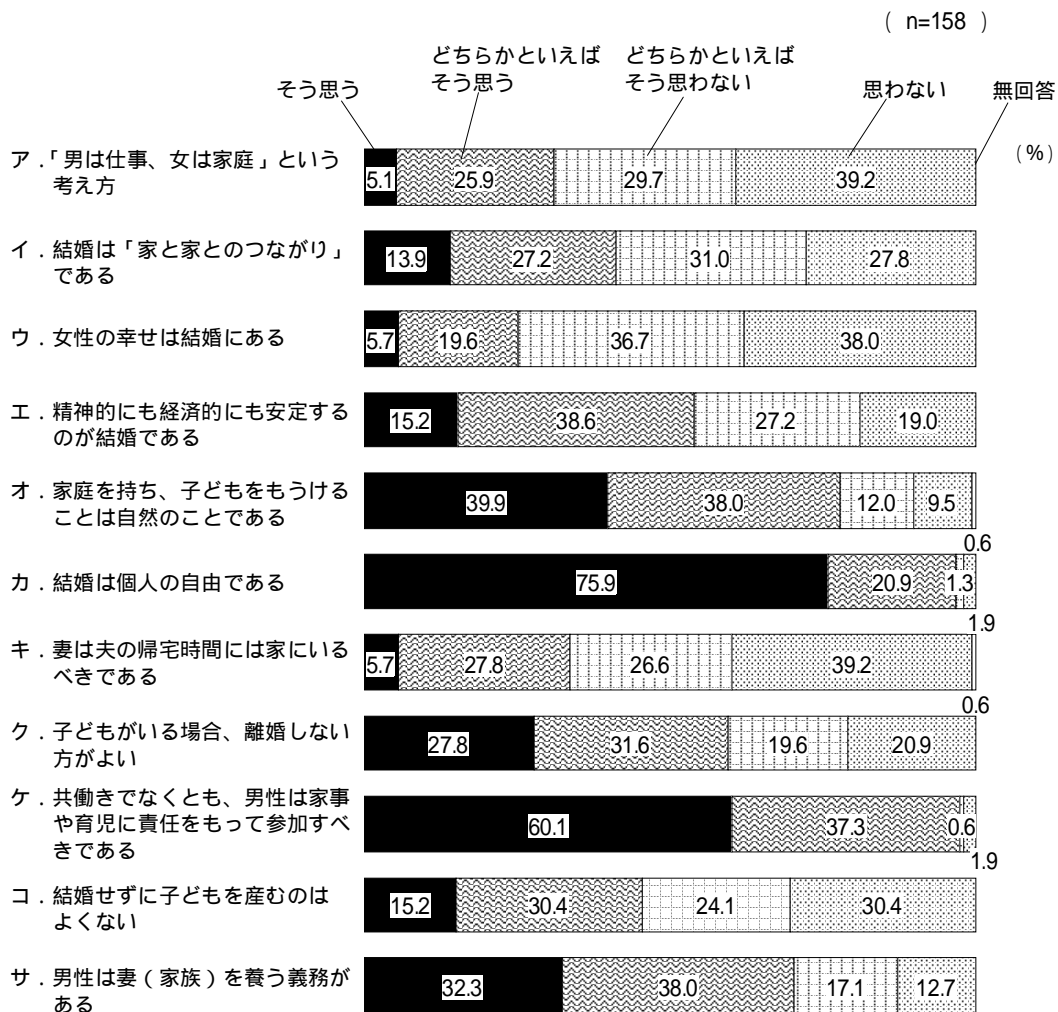


## 第2章 結婚観について

### 2 - 1 結婚観について

問12 あなたは次のア～サの考え方に対して、どのように思いますか。それぞれの項目について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。( はそれぞれ1つずつ)

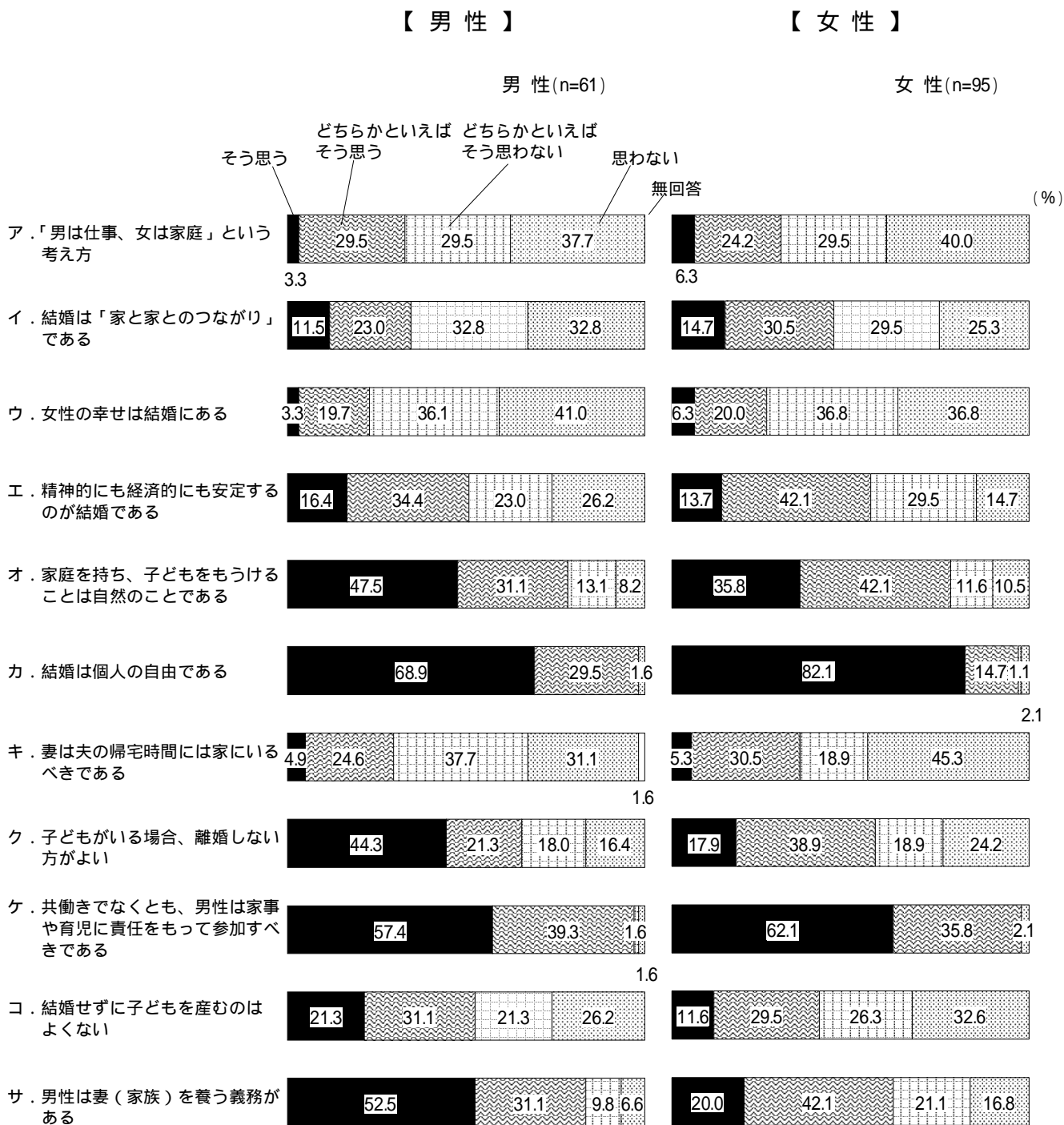
図 2 - 1



結婚観について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の多い順に整理すると、  
 <共働きでなくとも、男性は家事や育児に責任をもって参加すべきである> が97.4%で最も多く、  
 以下<結婚は個人の自由である> (96.8%) <家庭を持ち、子どもをもうけることは自然のこと  
 である> (77.9%) <男性は妻（家族）を養う義務がある> (70.3%) の順で続いている。

性別でみると、＜男性は妻（家族）を養う義務がある＞が男性83.6%と、女性（62.1%）を20ポイント以上、＜結婚せずに子どもを産むのはよくない＞が男性が52.4%と、女性（41.1%）より10ポイント以上多くなっている。また、＜結婚は「家と家とのつながり」である＞が女性が45.2%と男性（34.5%）より10ポイント以上多くなっている。

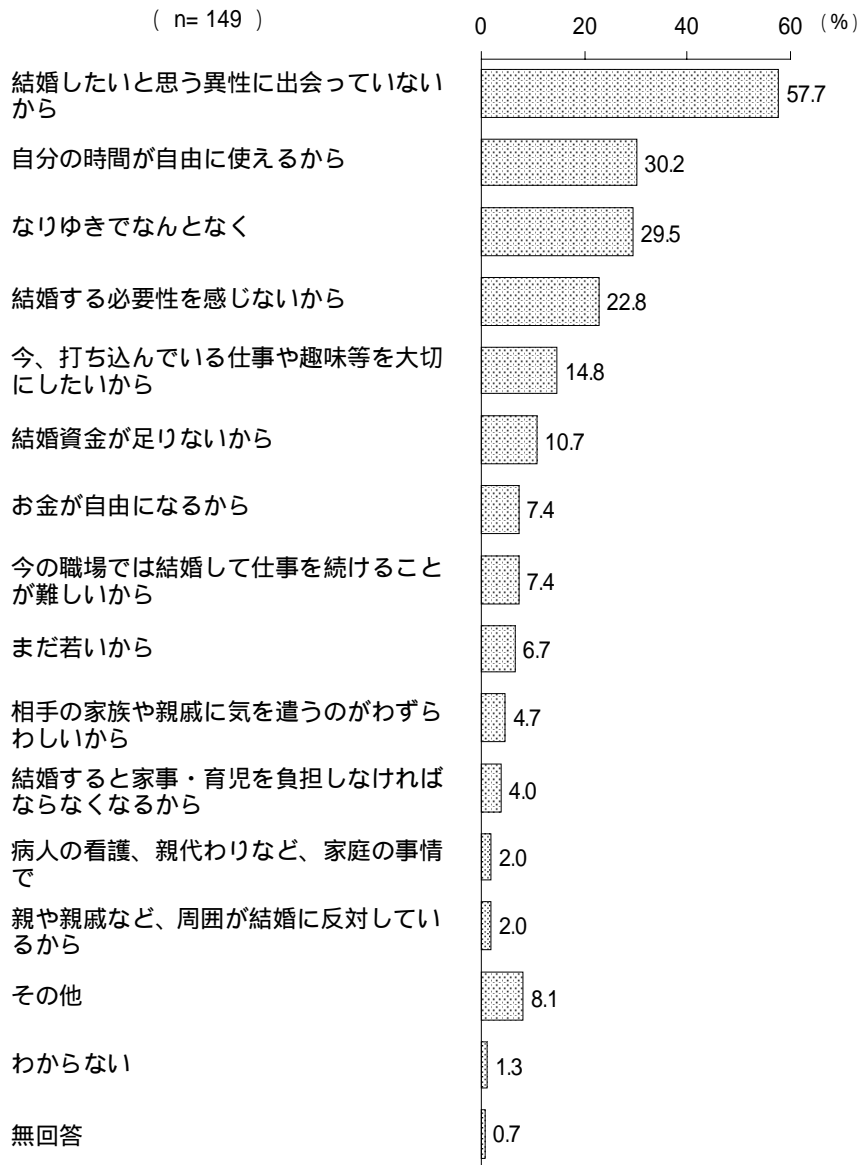
図 2 - 2



2 - 2 シングル（単身）でいる理由

問13 現在、あなたがシングル（単身）でいる主な理由は何ですか。（ は3つまで）

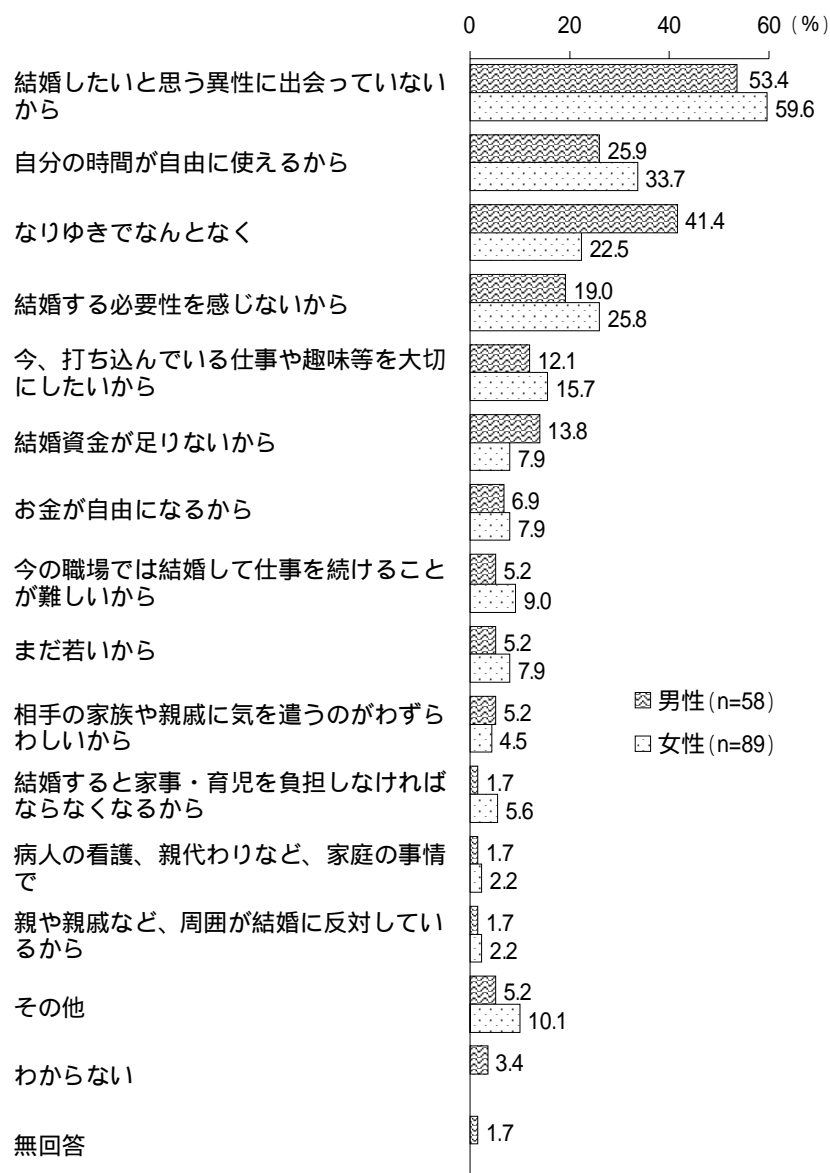
図 2 - 3



シングルでいる理由としては「結婚したいと思う異性に出会っていないから」が57.7%で最も多く、これに「自分の時間が自由に使えるから」(30.2%)と「なりゆきでなんとなく」(29.5%)が次いでいる。

性別でみると、男性では「なりゆきでなんとなく」が41.4%と、女性（22.5%）を大きく上回っている。一方、女性では「自分の時間が自由に使えるから」が33.7%、「結婚する必要性を感じないから」が25.8%と、いずれも男性より多くなっている点が特徴的である。

図2 - 4 性別 シングル（単身）でいる理由

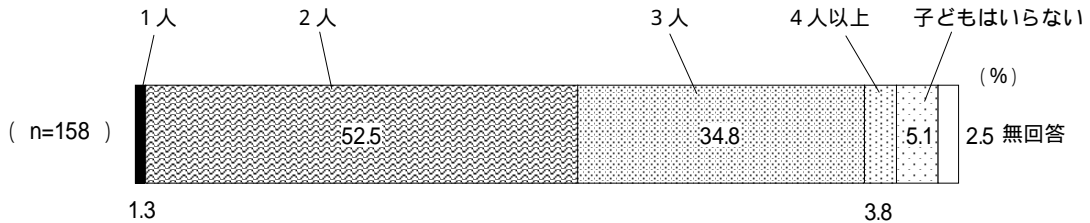


2 - 3 理想の子どもの人数

問14 あなたの理想としては、何人くらい子どもがいるのがよいと思いますか。

( は1つだけ )

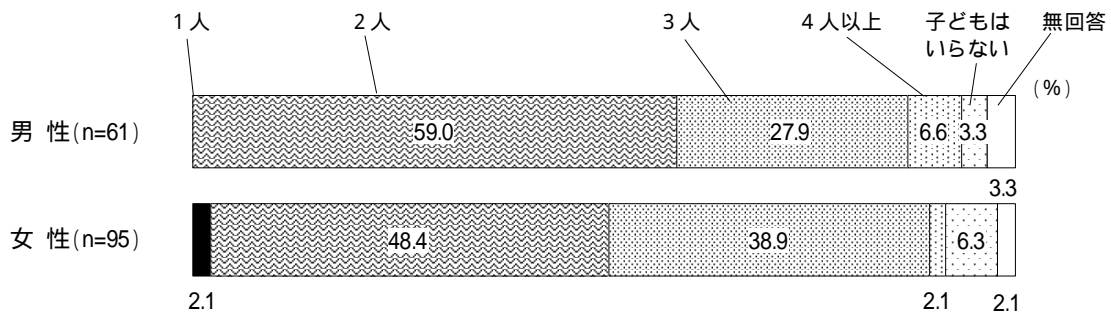
図 2 - 5



理想の子どもの数としては「2人」が52.5%と過半数を占め、これに「3人」(34.8%)が次いでいる。

性別でみると、女性では、「3人」が38.9%と、男性(27.9%)より10ポイント以上多くなっている。

図 2 - 6 性別 理想の子どもの人数



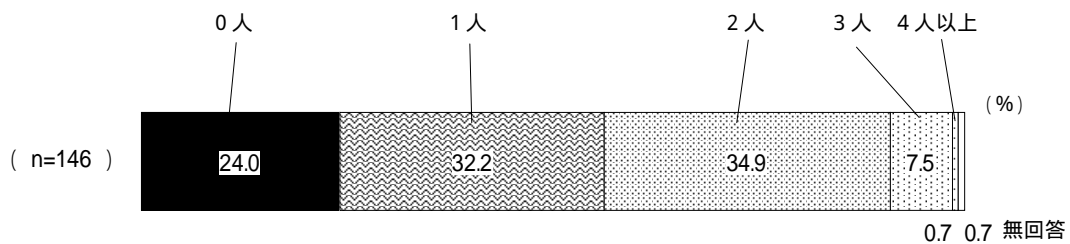
## 2 - 4 実際に持つ子どもの人数

(問14で1～4のいずれかをお答えの方に)

問14 - 1 あなたは問14の理想とは別に、実際に何人の子どもを持つと思いますか。

(は1つだけ)

図2 - 7

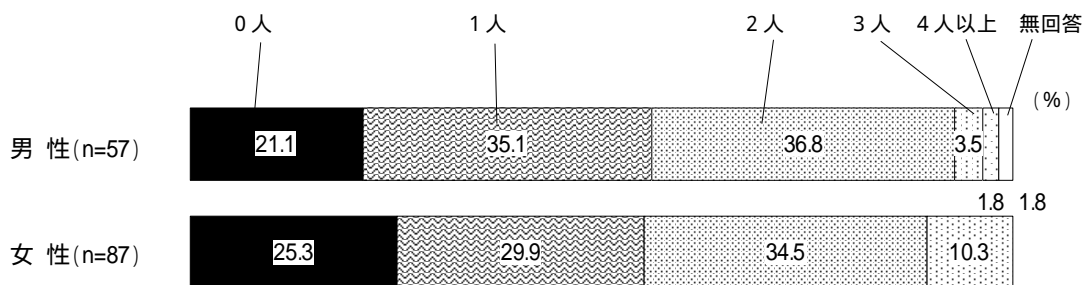


実際に持つ子ども数としては「2人」(34.9%)と「1人」(32.2%)が多くなっている。また「0人」という回答も24.0%となっている。

一方、「3人」は7.5%と1割に満たない。

性別でみると、女性では、「3人」が10.3%と、男性(3.5%)より多くなっている。

図2 - 8 性別 実際に持つ子どもの人数

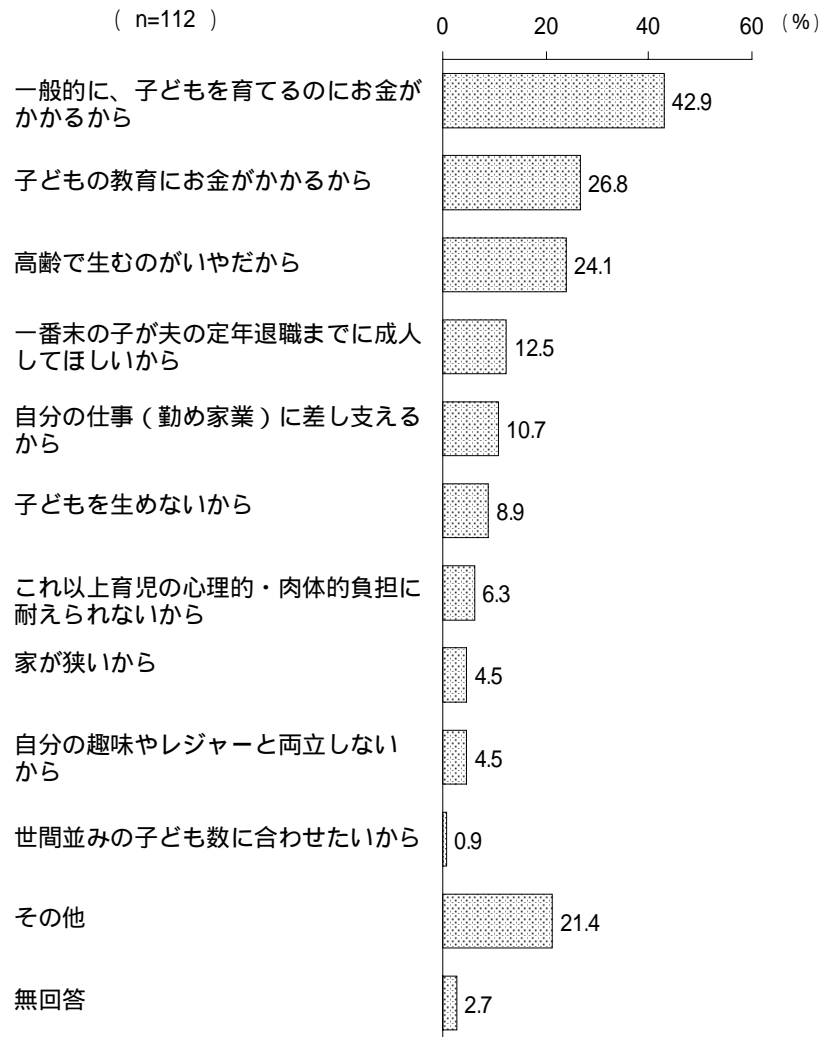




2 - 5 理想より子どもの人数が少ない理由

問15 その理由は何でしょうか。( は3つまで)

図 2 - 9

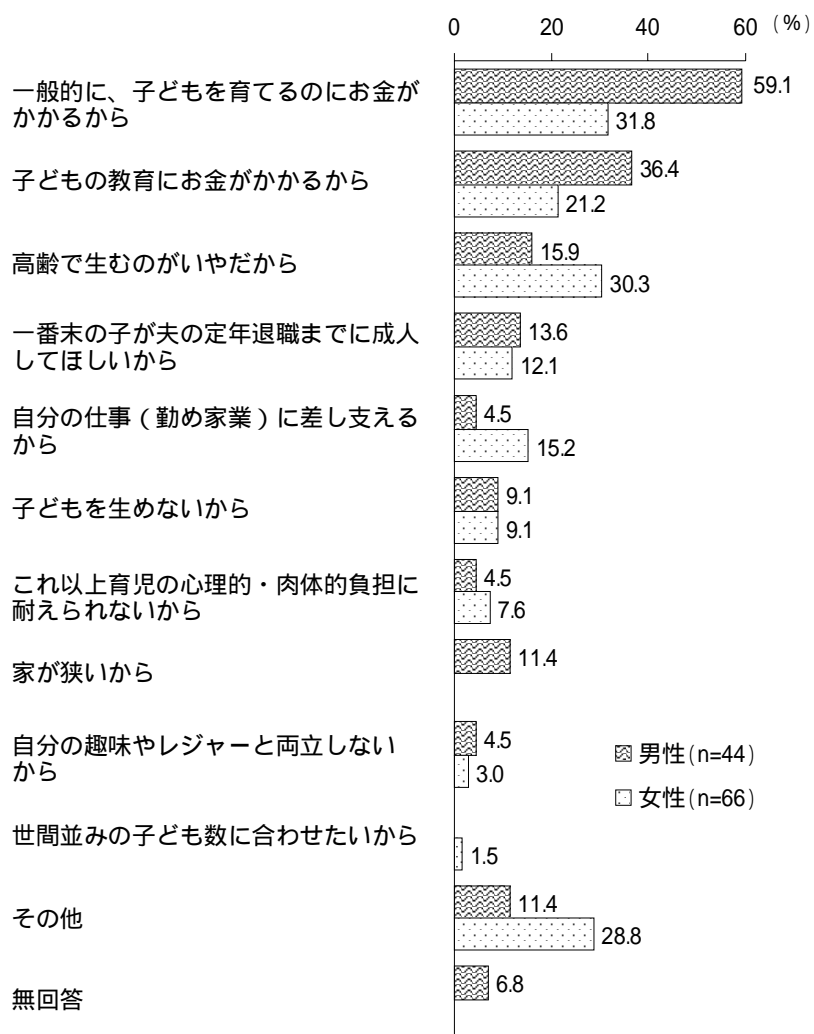


理想よりも実際の子どもの数が少ない人に、その理由をきいたところ「一般的に、子どもを育てるのにお金がかかるから」が42.9%で最も多く、これに「子どもの教育にお金がかかるから」(26.8%)と「高齢で生むのがいやだから」(24.1%)が次いでいる。

性別で見ると、男性では「一般的に、子どもを育てるのにお金がかかるから」が59.1%と、女性（31.8%）を倍近く上回っているほか、「子どもの教育にお金がかかるから」も36.4%と、女性（21.2%）より多くなっている。

一方、女性では「高齢で生むのがいやだから」（30.3%）と、「自分の仕事（勤め家業）に差し支えるから」（15.2%）が男性と比べて多くなっている。

図 2 - 10 性別 理想より子どもの人数が少ない理由

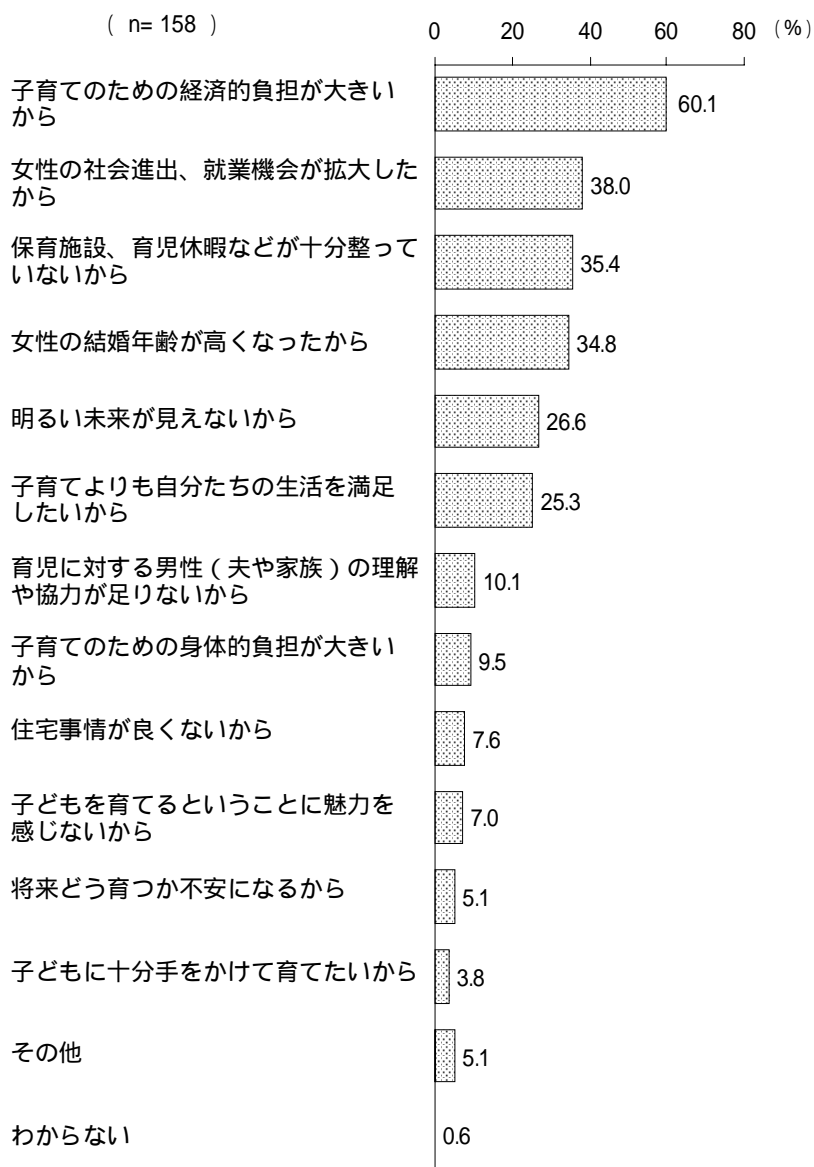


### 第3章 子育て観について

#### 3 - 1 少子化の原因

問16 ここ数年、出生率の低下が進み、社会全体で子どもの数が減少している現状がありますが、少子化については何が原因だと思いますか。( は3つまで)

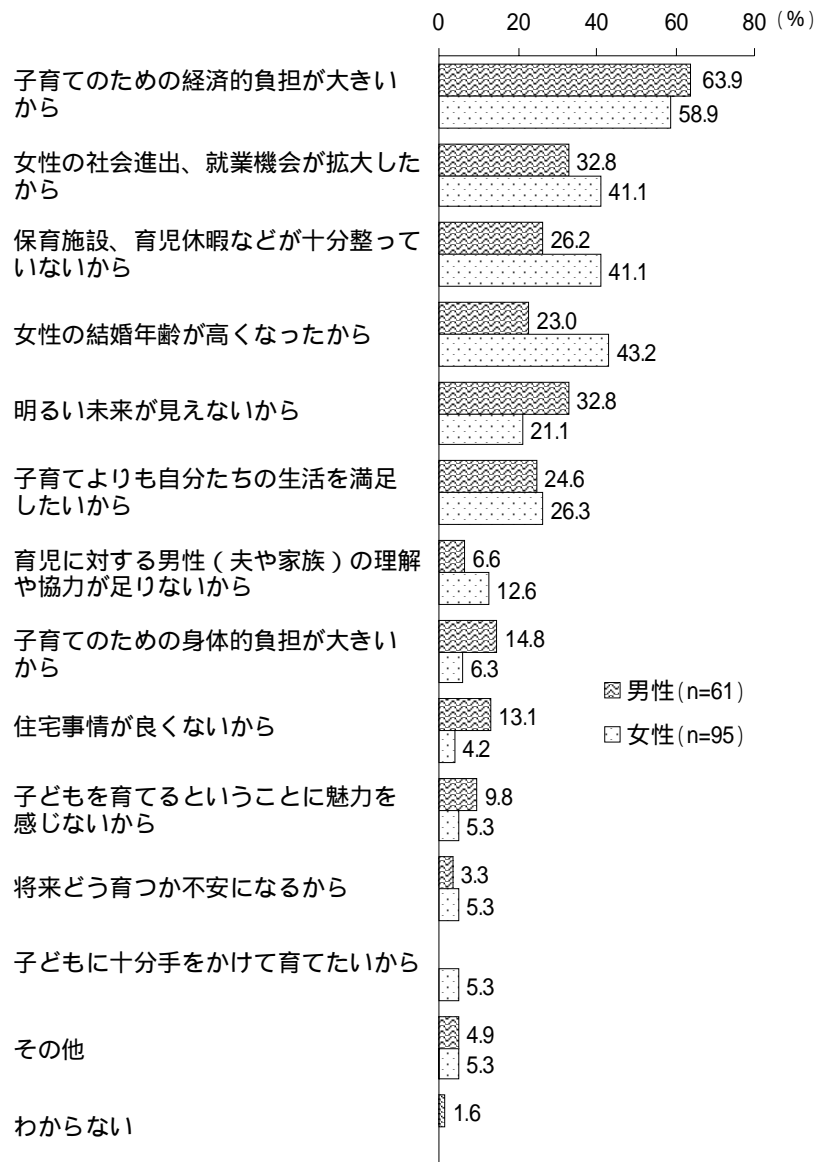
図3 - 1



少子化の原因としては「子育てのための経済的負担が大きいから」が60.1%で最も多く、以下、「女性の社会進出、就業機会が拡大したから」(38.0%)、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」(35.4%)、「女性の結婚年齢が高くなったから」(34.8%)の順で続いている。

性別で見ると、「子育てのための経済的負担が大きいから」が男性63.9%、女性58.9%と男女とも最も多くなっている。しかし、女性では「女性の社会進出、就業機会が拡大したから」(41.1%)、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」(41.1%)、「女性の結婚年齢が高くなったから」(43.2%)が、いずれも40.0%を超えており、男性を上回っている。

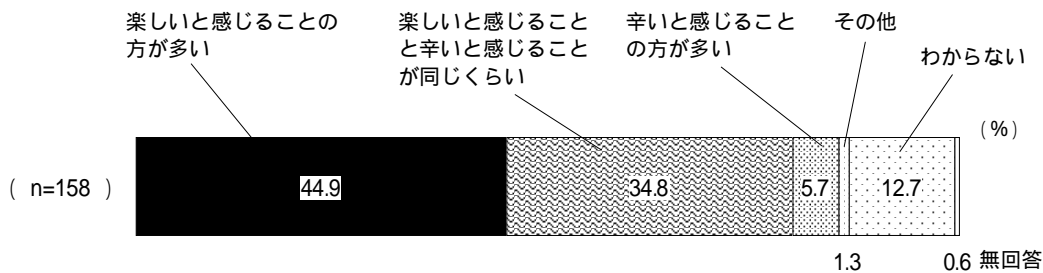
図3 - 2 性別 少子化の原因



### 3 - 2 子育てについての意識

問17 あなたは、子育てが楽しいと思いますか。それとも辛いと思いますか。将来、自分が子育てをする場合を想定してお答えください。また、お子さんがいらっしゃる方は、実際にどう感じていますか。( は1つだけ)

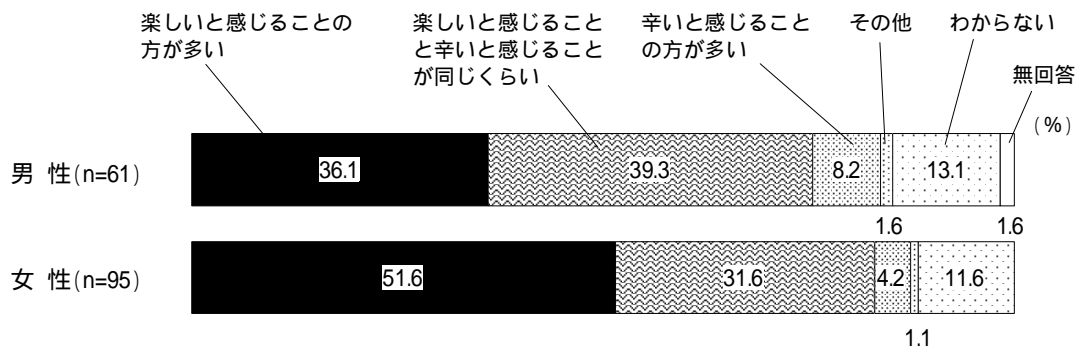
図3 - 3



子育てについての意識をみると、「楽しいと感じることの方が多い」が44.9%で最も多く、これに「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」(34.8%)が次いでいる。一方、「辛いと感じることの方が多い」は5.7%となっている。

性別でみると、女性では「楽しいと感じることの方が多い」が51.6%と、男性(36.1%)を大きく上回っている。

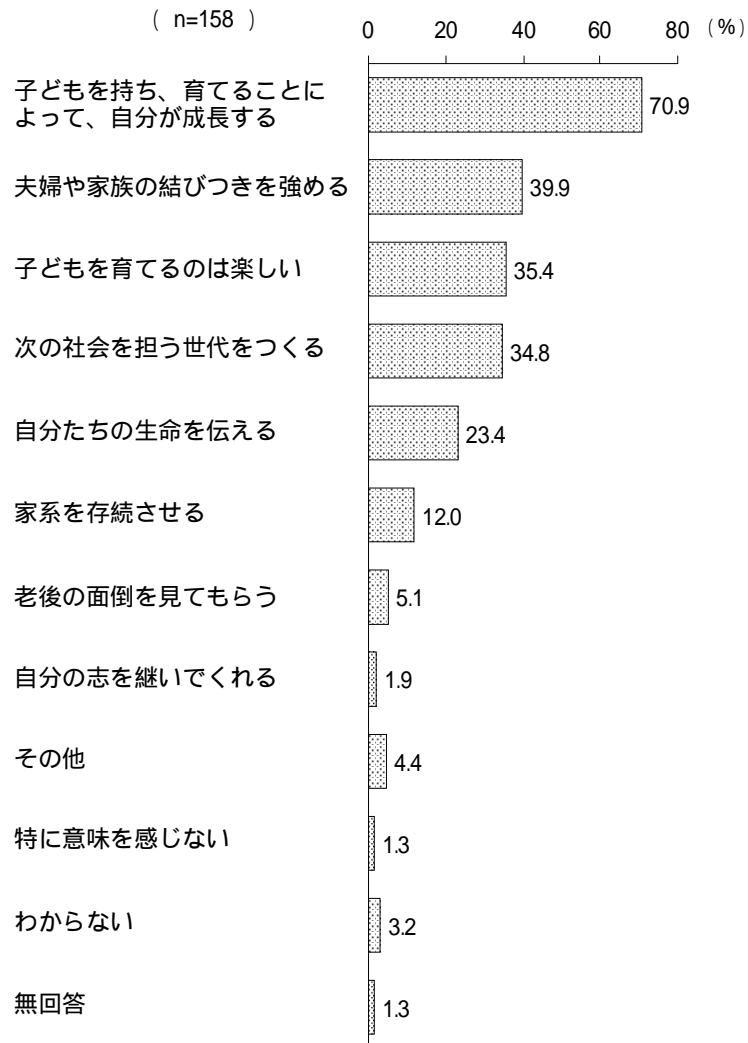
図3 - 4 性別 子育てについての意識



3 - 3 子どもを生き育てるということについての意識

問18 あなたは、子どもを生き育てるということをどのように感じますか。( は3つまで)

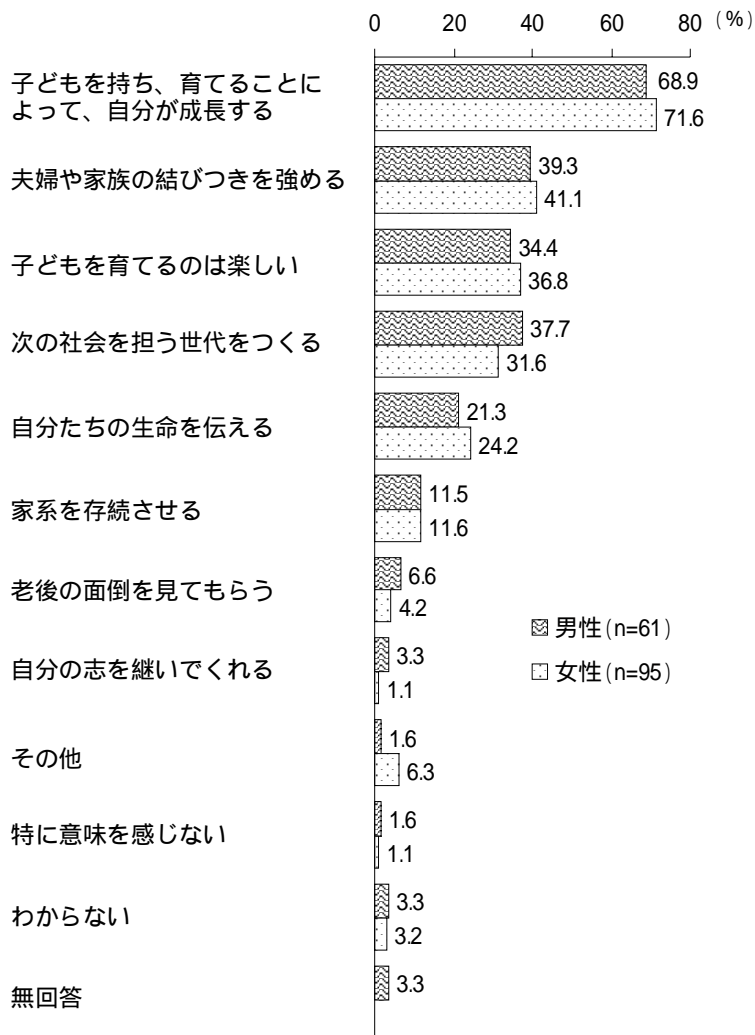
図3 - 5



子どもを生き育てることの意義としては「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」(70.9%)が際立って多くなっている。また、「夫婦や家族の結びつきを強める」(39.9%)、「子どもを育てるのは楽しい」(35.4%)、「次の社会を担う世代をつくる」(34.8%)も30.0%を超えて多くなっている。

性別でも、全体として大きな男女差はないが、「次の社会を担う世代をつくる」は男性が37.7%と、女性（31.6%）より多くなっている。

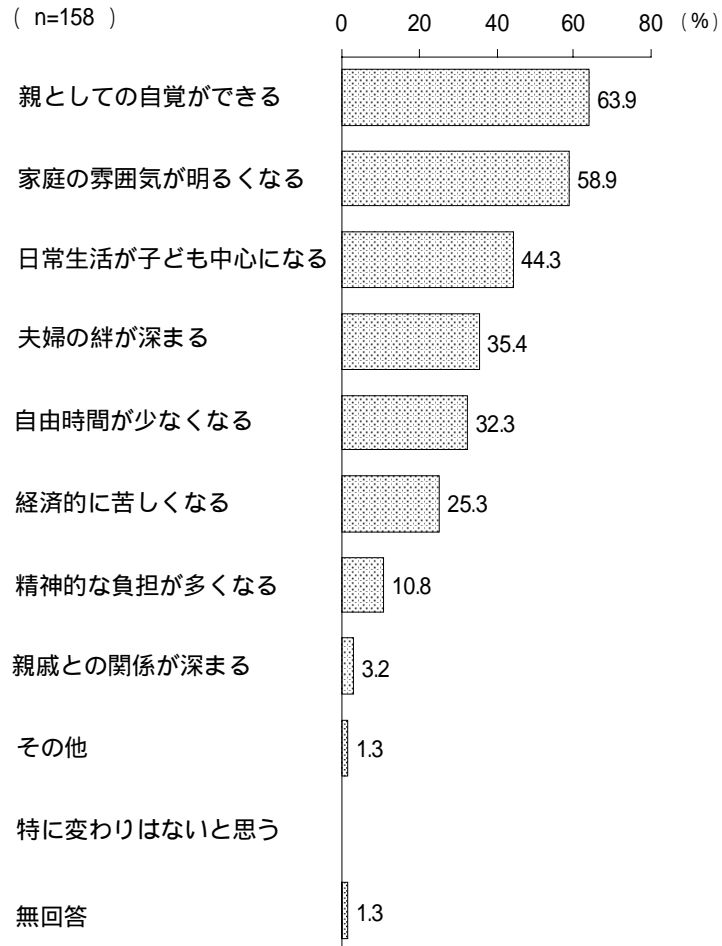
図3 - 6 性別 子どもを生き育てるということについての意識



### 3 - 4 子どもを持つことによる家庭の変化

問19 子どもを持つということで、家庭にはどのような変化があると思いますか。( は3つまで)

図 3 - 7



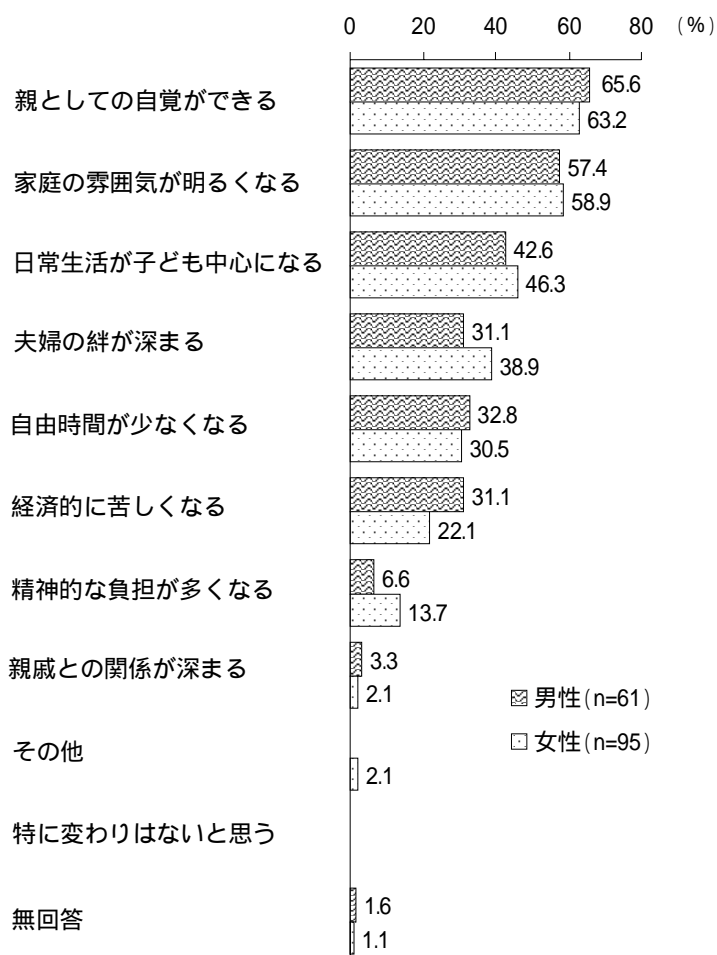
子どもを持つことでの家庭における変化としては「親としての自覚ができる」(63.9%)と「家庭の雰囲気が明るくなる」(58.9%)の2項目が特に多くなっている。

また、「日常生活が子ども中心になる」(44.3%)もかなり多くなっている。



性別でみると、上位3項目は、男女とも共通している。  
 他の項目をみると、女性では「夫婦の絆が深まる」が38.9%と、男性(31.1%)を上回っている。  
 一方、男性では「経済的に苦しくなる」が31.1%と、女性(22.1%)より多くなっている。

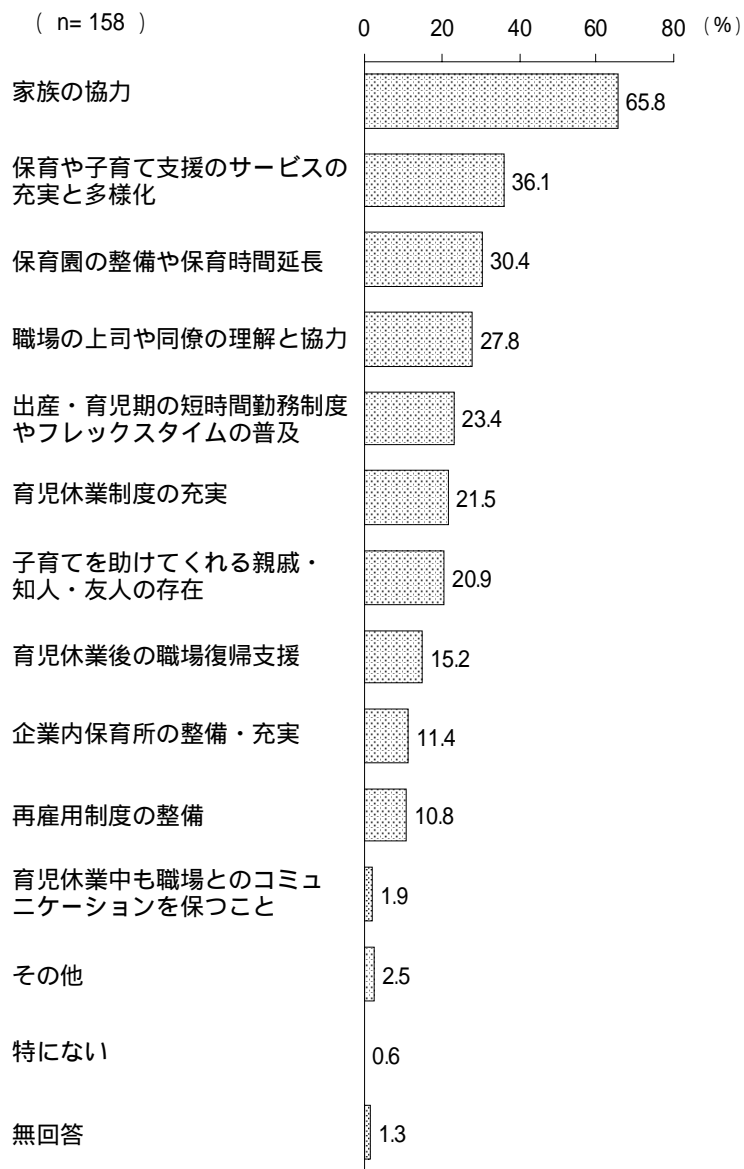
図3 - 8 性別 子どもを持つことによる家庭の変化



3 - 5 仕事と子育てを両立させるために必要なこと

問20 仕事と子育てを両立させるためには、何が重要だと思いますか。( は3つまで)

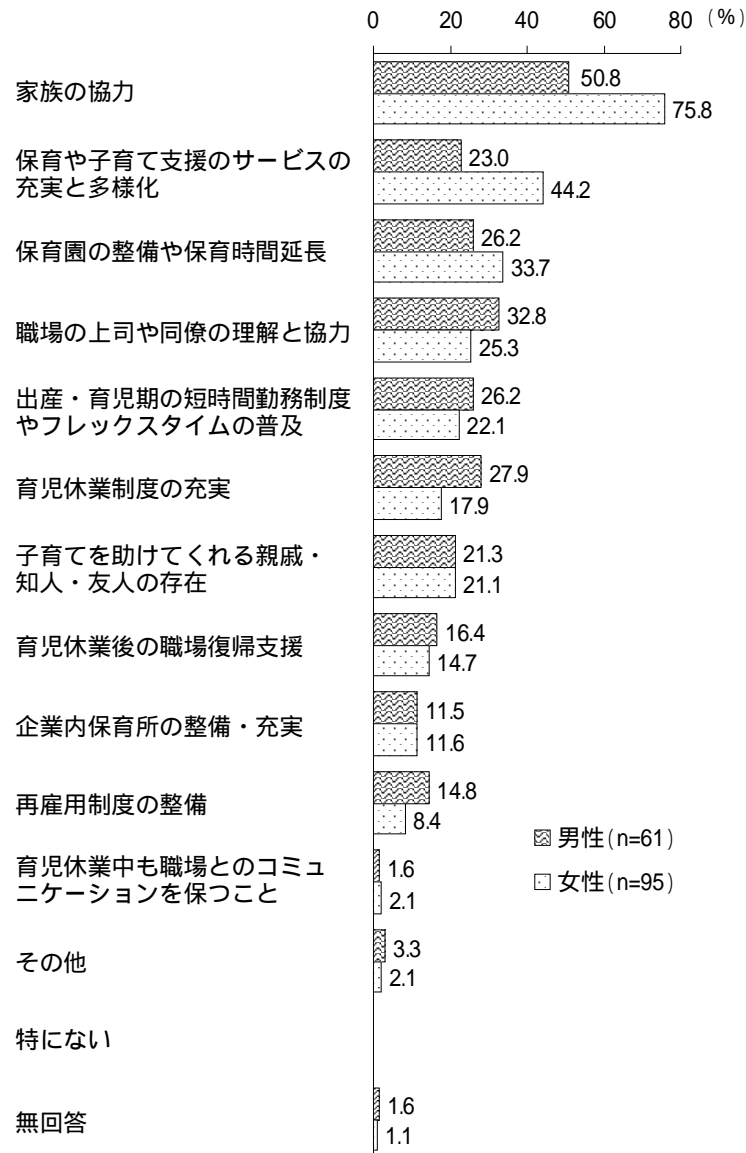
図3 - 9



仕事と子育てを両立させるために必要なこととしては「家族の協力」が65.8%で最も多く、以下「保育や子育て支援のサービスの充実と多様化」( 36.1% )、「保育園の整備や保育時間延長」( 30.4% ) の順で続いている。

性別でみると、女性では、「家族の協力」が75.8%と男性（50.8%）を大きく上回っている。また、「保育や子育て支援のサービスの充実と多様化」についても女性44.2%、男性23.0%と、女性の要望の高さが目立っている。

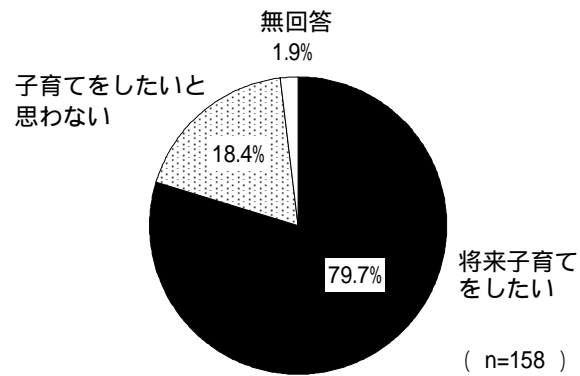
図3 - 10 性別 仕事と子育てを両立させるために必要なこと



### 3 - 6 将来の子育ての希望

問21 あなたは、将来子育てをしたいと思いますか。

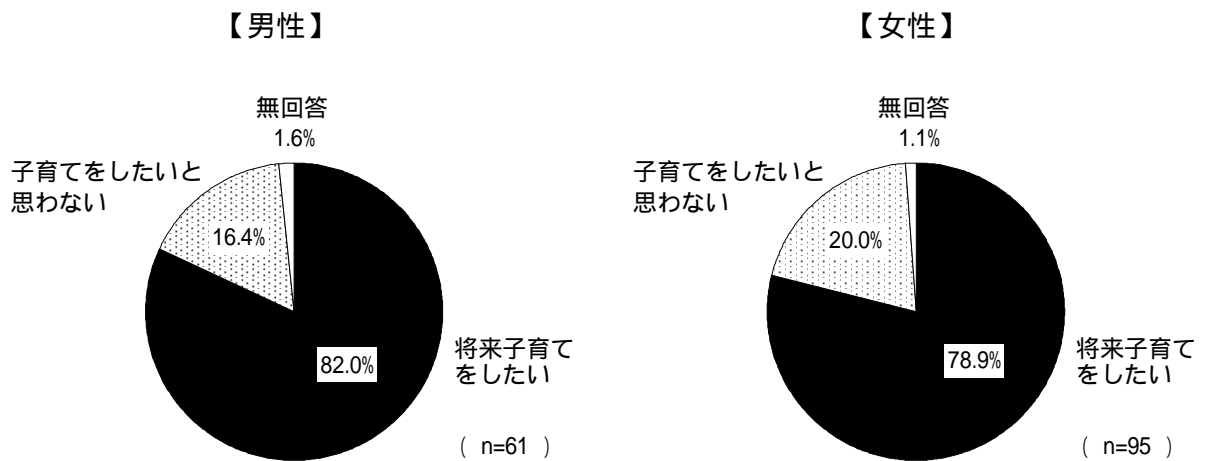
図 3 - 11



「将来子育てをしたい」という人は79.7%と8割近くを占めている。

性別でも、「将来子育てをしたい」が男性82.0%、女性78.9%と、男女とも8割前後を占めている。

図 3 - 12 性別 将来の子育ての希望

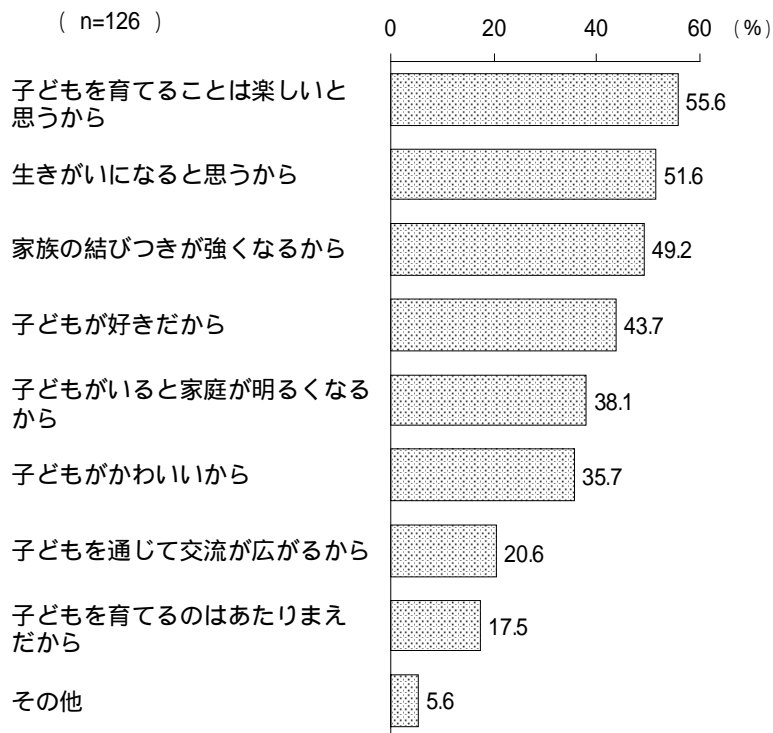


### 3 - 7 将来子育てをしたいと思う理由

(問21で「1. 将来子育てをしたい」とお答えの方に)

問21 - 1 将来子育てをしたいと思う理由は何ですか。( はあてはまるものすべて)

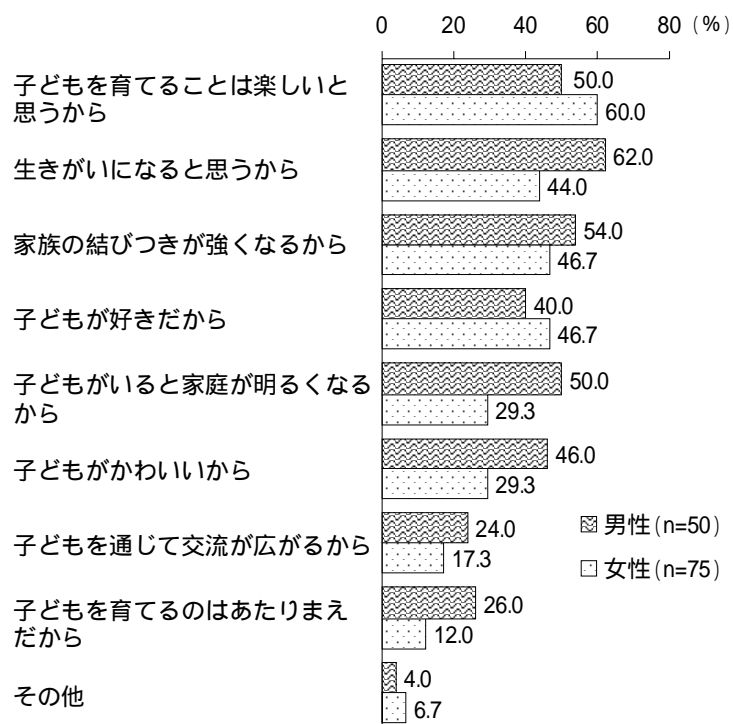
図3 - 13



将来子育てをしたい理由としては「子どもを育てることは楽しいと思うから」(55.6%)、「生きがいになると思うから」(51.6%)、「家族の結びつきが強くなるから」(49.2%)の3項目が、いずれも5割前後を占めて多くなっている。

性別でみると、女性では「子どもを育てることは楽しいと思うから」が60.0%で、男性（50.0%）を上回っている。一方、男性では「生きがいになると思うから」（62.0%）、「家族の結びつきが強くなるから」（54.0%）が、女性より多くなっている。

図3 - 14 性別 将来子育てをしたいと思う理由

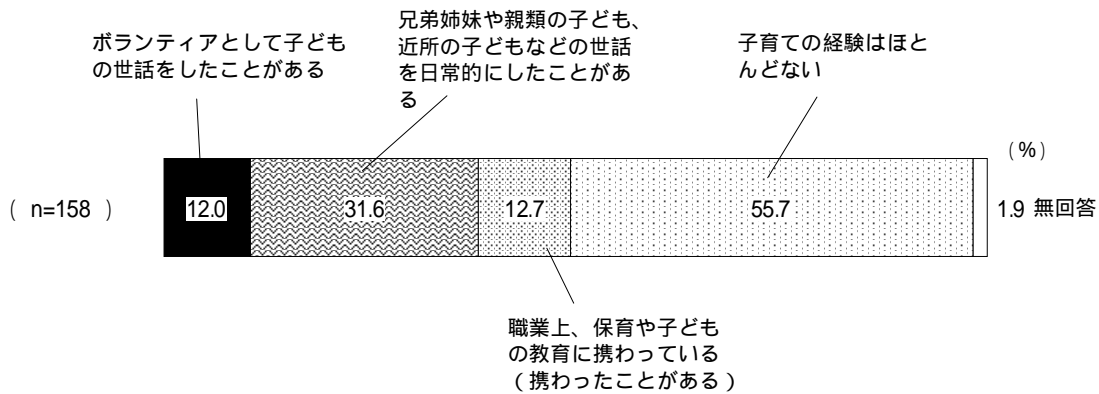


## 第4章 日常生活の中での子どもとの関わりについて

### 4-1 子育てなどに関わった経験

問22 これまでに子育てなどに関わったことがありますか。( はあてはまるものすべて)

図4-1

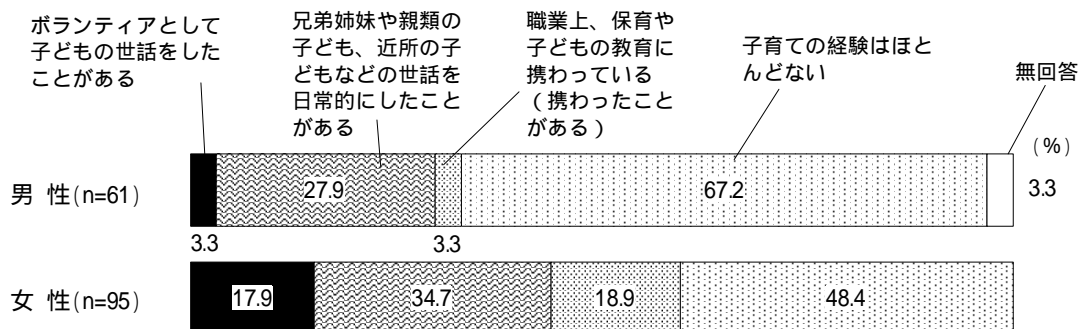


子育てに関わった経験としては「兄弟姉妹や親類の子ども、近所の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」が31.6%で最も多く、これに「職業上、保育や子どもの教育に携わっている(携わったことがある)」「(12.7%)」と「ボランティアとして子どもの世話をしたことがある」(12.0%)が次いでいる。一方、「子育ての経験はほとんどない」は55.7%と過半数を占めている。

性別でみると、女性では「兄弟姉妹や親類の子ども、近所の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」が34.7%と、男性(27.9%)より多くなっているほか、他の項目についても女性のほうが経験者が多くなっている。

また、男性では「子育ての経験はほとんどない」が67.2%と、女性(48.4%)を大きく上回っている。

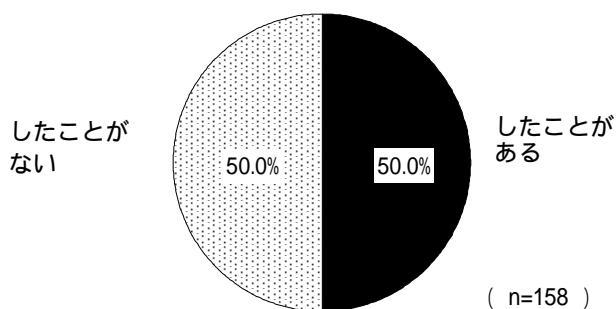
図4-2 性別 子育てなどに関わった経験



#### 4 - 2 赤ちゃんのおムツがえ等の経験

問23 あなたは、赤ちゃんにミルクを飲ませたり、おムツがえなどをしたことがありますか。

図 4 - 3



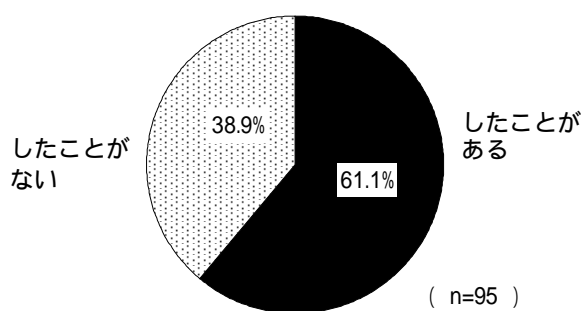
赤ちゃんにミルクを飲ませたり、おムツがえなどを「したことがある」人は50.0%を占めている。性別で見ると、女性では「したことがある」が61.1%と、男性(31.1%)を倍近く上回っている。

図 4 - 4 性別 赤ちゃんのおムツがえ等の経験

【男性】



【女性】

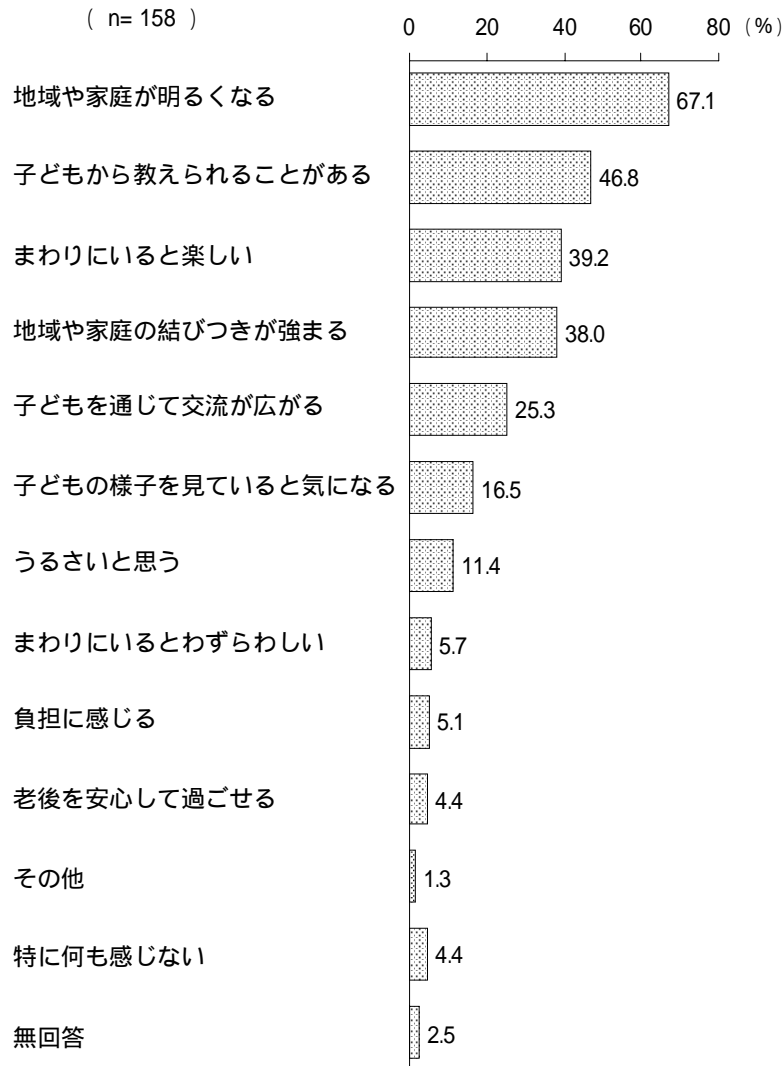




4 - 3 家族や地域社会など、自分の周りに子どもがいることの意義

問24 家族や地域社会など、自分の周りに子どもがいることをどう思いますか。  
( はあてはまるものすべて )

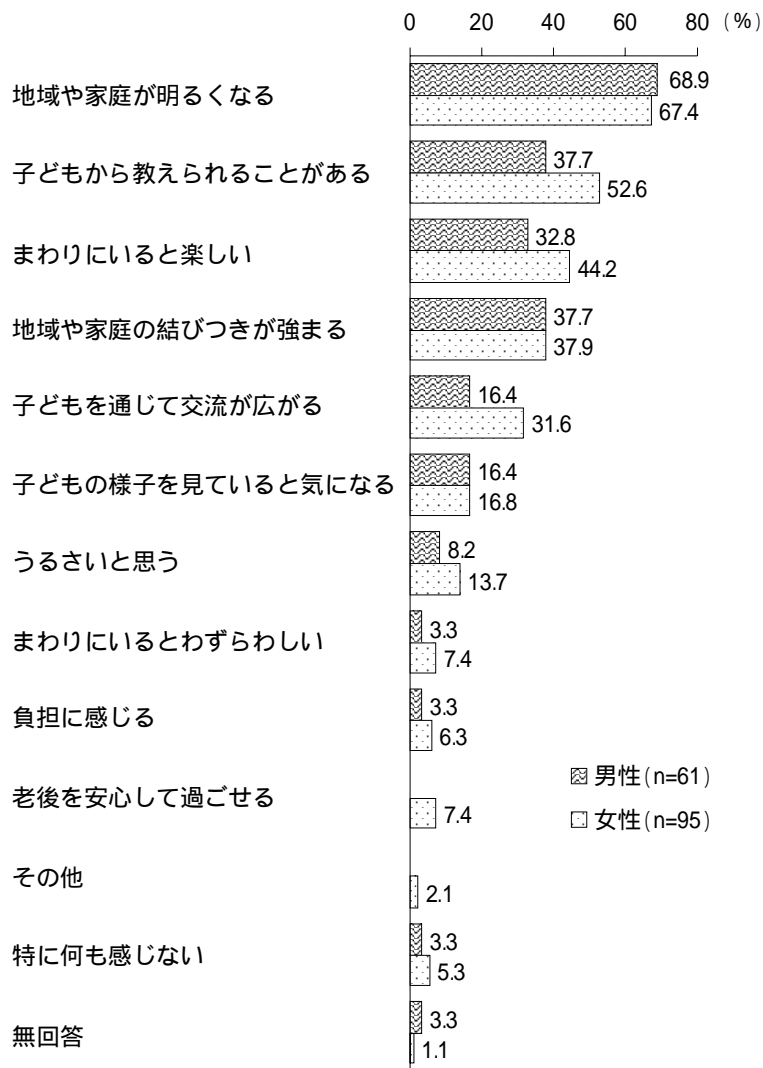
図 4 - 5



家族や地域社会において自分の身の回りに子どもがいることについては「地域や家庭が明るくなる」が67.1%で最も多く、以下「子どもから教えられることがある」(46.8%)、「まわりにいると楽しい」(39.2%)、「地域や家庭の結びつきが強まる」(38.0%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「子どもから教えられることがある」が52.6%と過半数を占め、男性（37.7%）より多くなっているほか、「まわりにいると楽しい」（44.2%）や「子どもを通じて交流が広がる」（31.6%）も男性を上回っている。

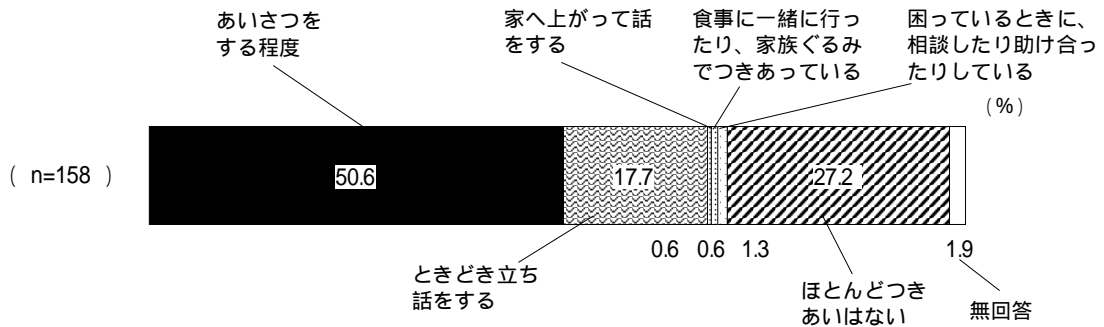
図4 - 6 性別 家族や地域社会など、自分の周りに子どもがいることの意義



4 - 4 となり近所とのつきあい

問25 あなた自身、となり近所とのつきあいはどうですか。( は1つだけ)

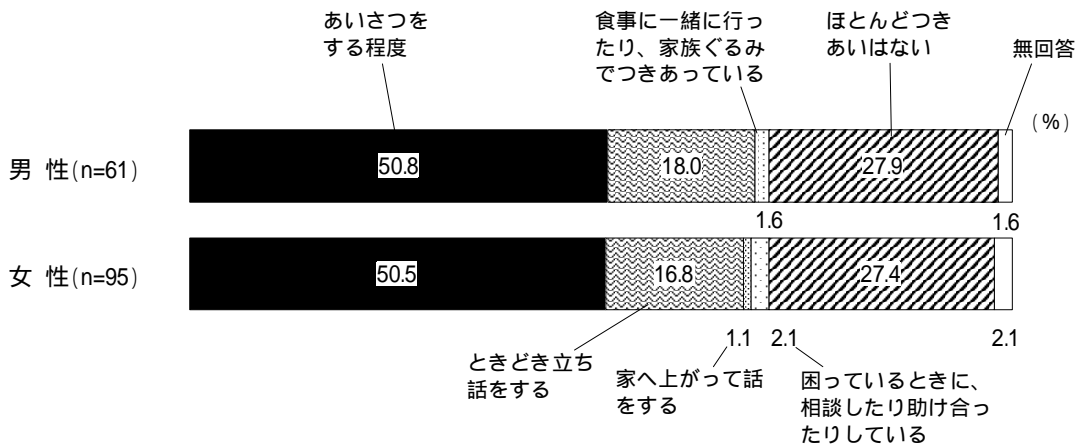
図 4 - 7



となり近所との関わりについては「あいさつをする程度」が50.6%と最も多く、これに「ときどき立ち話をする」(17.7%)が次いでいる。一方、「ほとんどつきあいはない」は27.2%となっている。

性別でみても、男女の回答傾向はほぼ一致している。

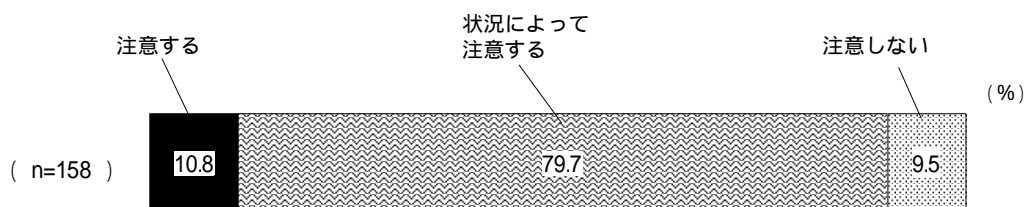
図 4 - 8 性別 となり近所とのつきあい



4 - 5 よその子どものいたずらやいじめを見た場合の対応

問26 よその子どものいたずらやいじめを見たら、どうしますか。( は1つだけ)

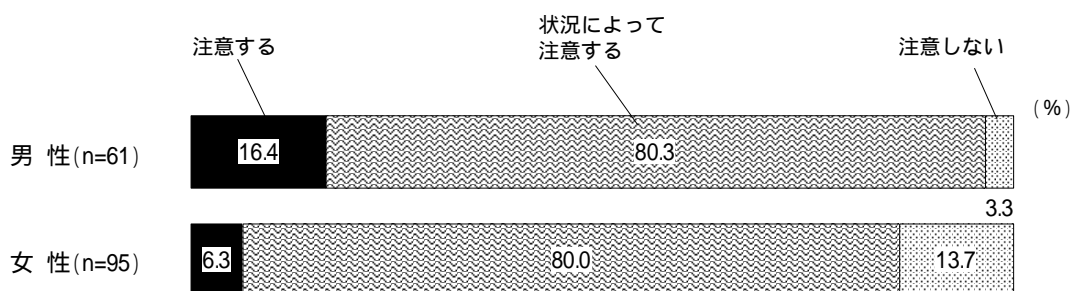
図 4 - 9



よその子どものいたずらやいじめを見た場合の対応として、「注意する」は10.8%と少なく、「状況によって注意する」が79.7%と8割近くを占めている。

性別でみると、男性では「注意する」が16.4%と、女性（6.3%）を上回っている。

図 4 - 10 性別 よその子どものいたずらやいじめを見た場合の対応

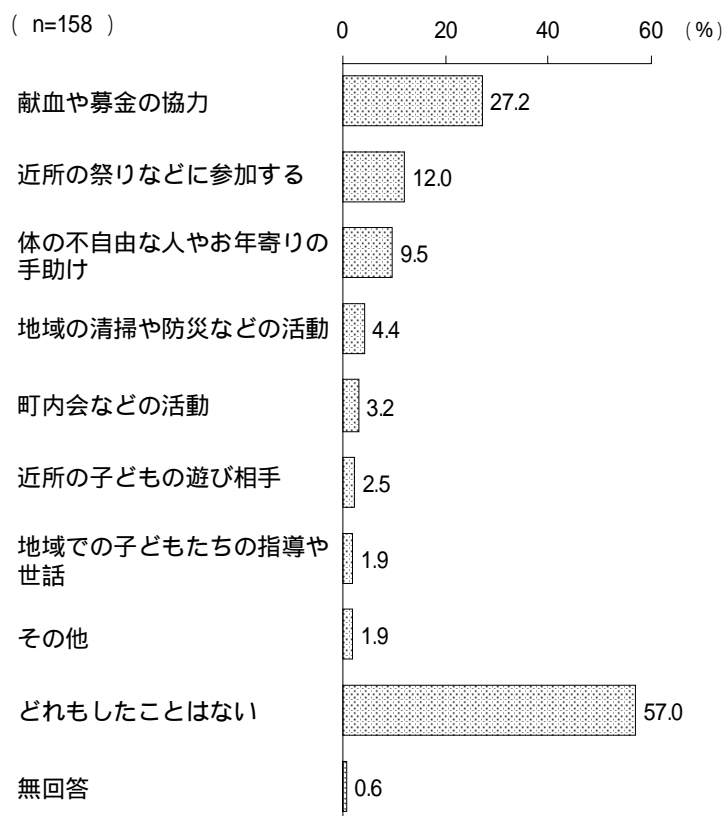


4 - 6 この1年間の地域活動への参加状況

問27 この1年間で次のような地域活動をしたことがありますか。

( はあてはまるものすべて )

図 4 - 11

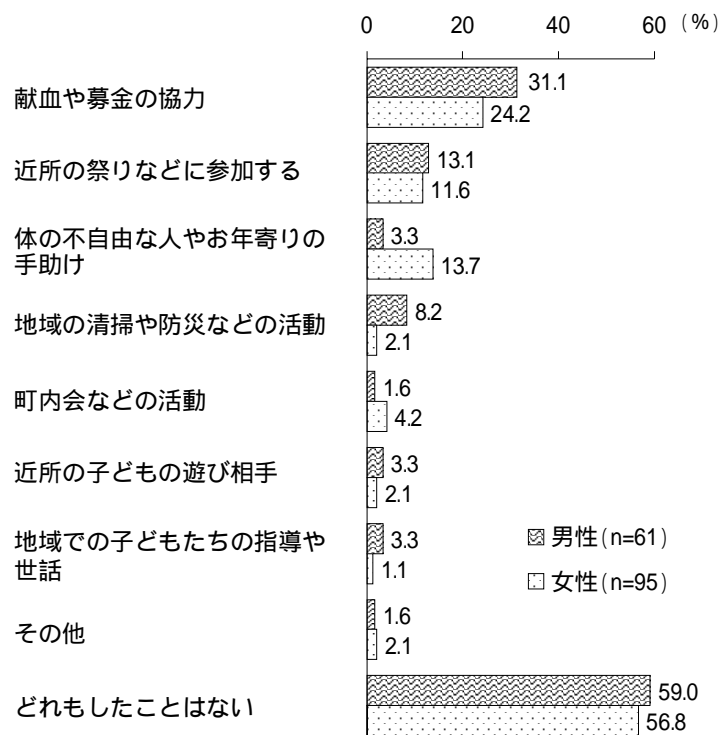


この1年間の地域活動への参加状況を見ると、「献血や募金の協力」が27.2%で最も多く、これに「近所の祭りなどに参加する」(12.0%)が次いでいる。

一方、「どれもしたことはない」は57.0%を占めている。

性別で見ると、女性では「体の不自由な人やお年寄りの手助け」が13.7%と男性（3.3%）を10ポイント以上上回っている点が特徴的である。

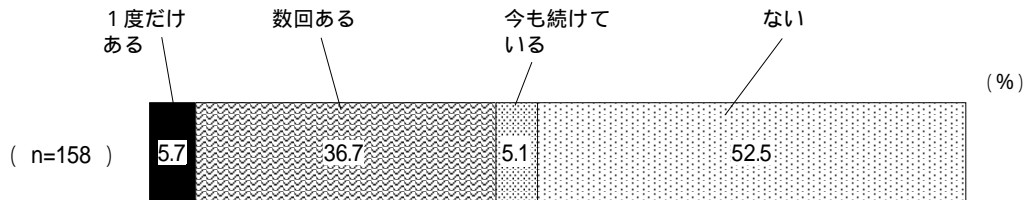
図4 - 12 性別 この1年間の地域活動への参加状況



4 - 7 ボランティア活動の経験

問28 ボランティア活動をしたことがありますか。( は1つだけ)

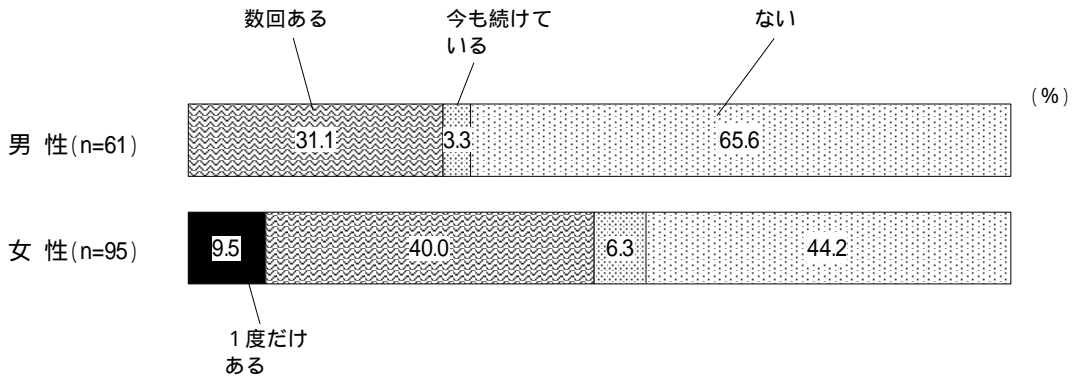
図4 - 13



ボランティア活動を「今も続けている」は5.1%で、これに「数回ある」(36.7%)「1度だけある」(5.7%)を合わせた<ボランティア経験あり>は47.5%と半数近くを占めている。一方、「ない」は52.5%である。

性別でみると、女性では「今も続けている」が6.3%いるほか、<ボランティア経験あり>は55.8%と、男性(34.4%)を20ポイント以上上回っている。

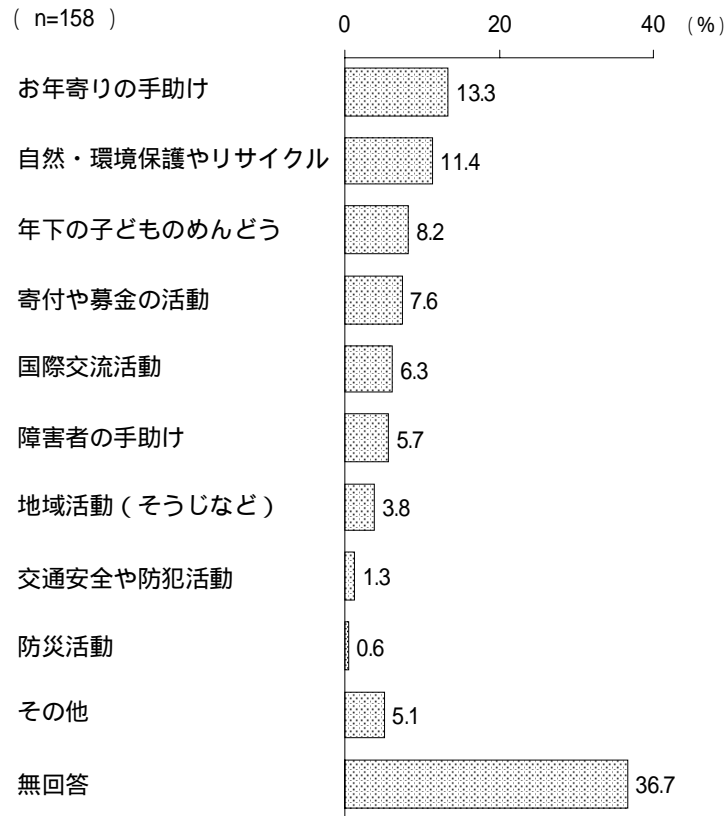
図4 - 14 性別 ボランティア活動の経験



4 - 8 参加したボランティア活動の内容

問29 問28で参加したボランティア活動は何ですか。また、参加したことがない人は、参加してみたい活動は何ですか。( は1つだけ)

図 4 - 15

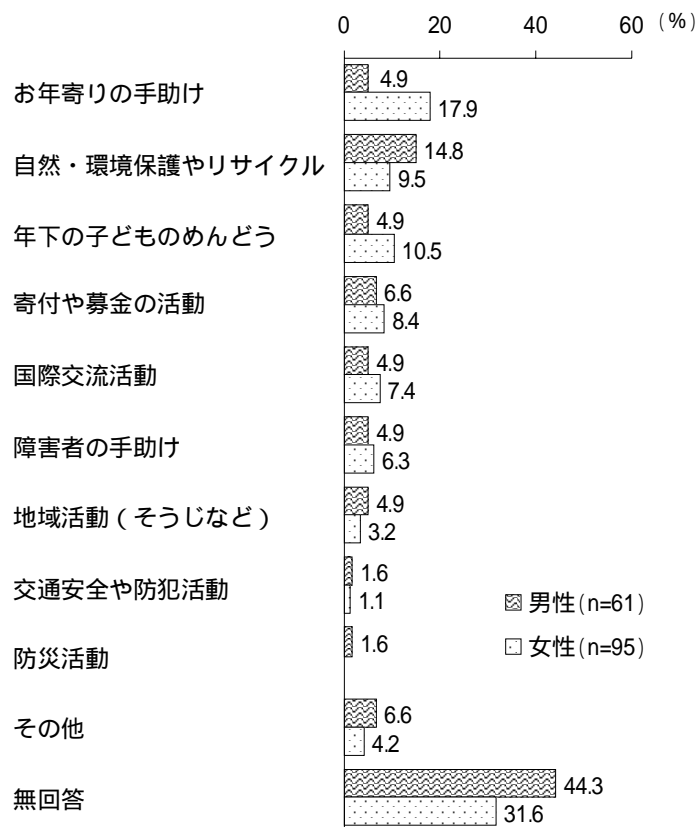


参加してみたい活動は、各項目に分散しているが、その中では「お年寄りの手助け」(13.3%)と「自然・環境保護やりサイクル」(11.4%)が多くなっている。



性別で見ると、女性では「お年寄りの手助け」(17.9%)と「年下の子どもへのめんどう」(10.5%)が男性より多くなっている。

図4 - 16 性別 参加したボランティア活動の内容

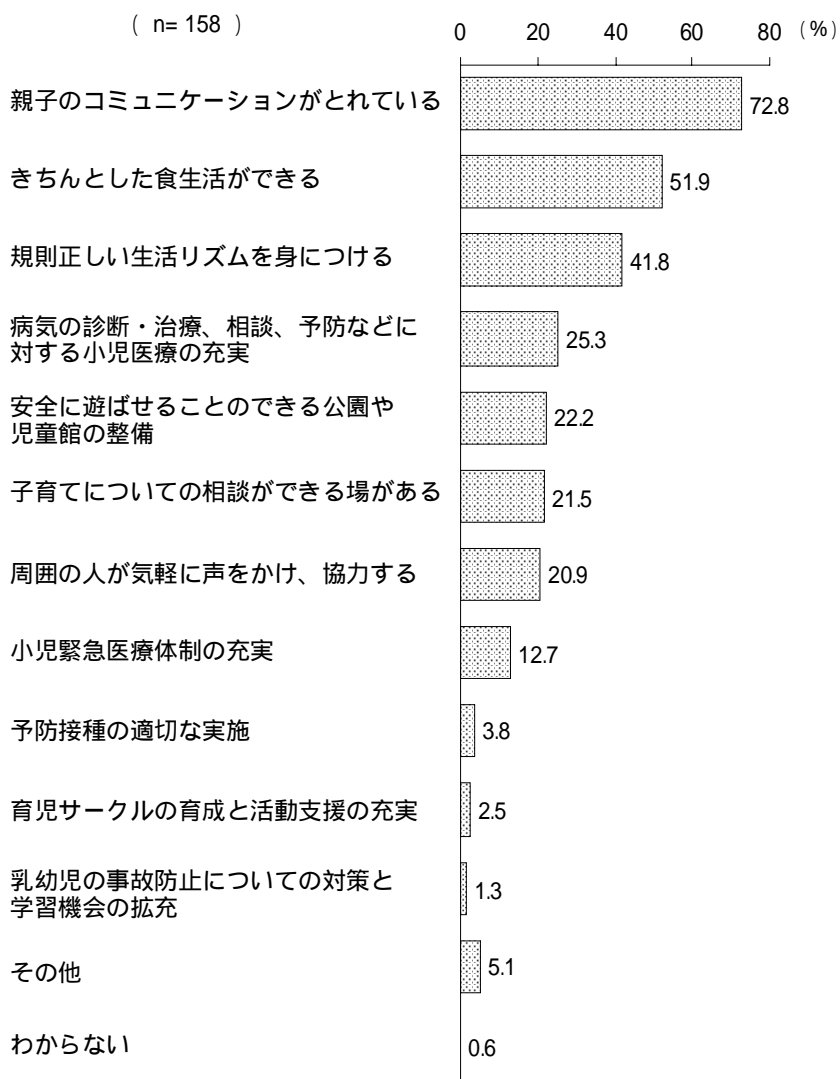


## 第5章 子どもたちを健やかに育てるための支援

### 5 - 1 子どもが健康に育つことができるために大切なこと

問30 子どもが、健康に育つことができるようにするために、どのようなことが大切だと思いますか。( は3つまで)

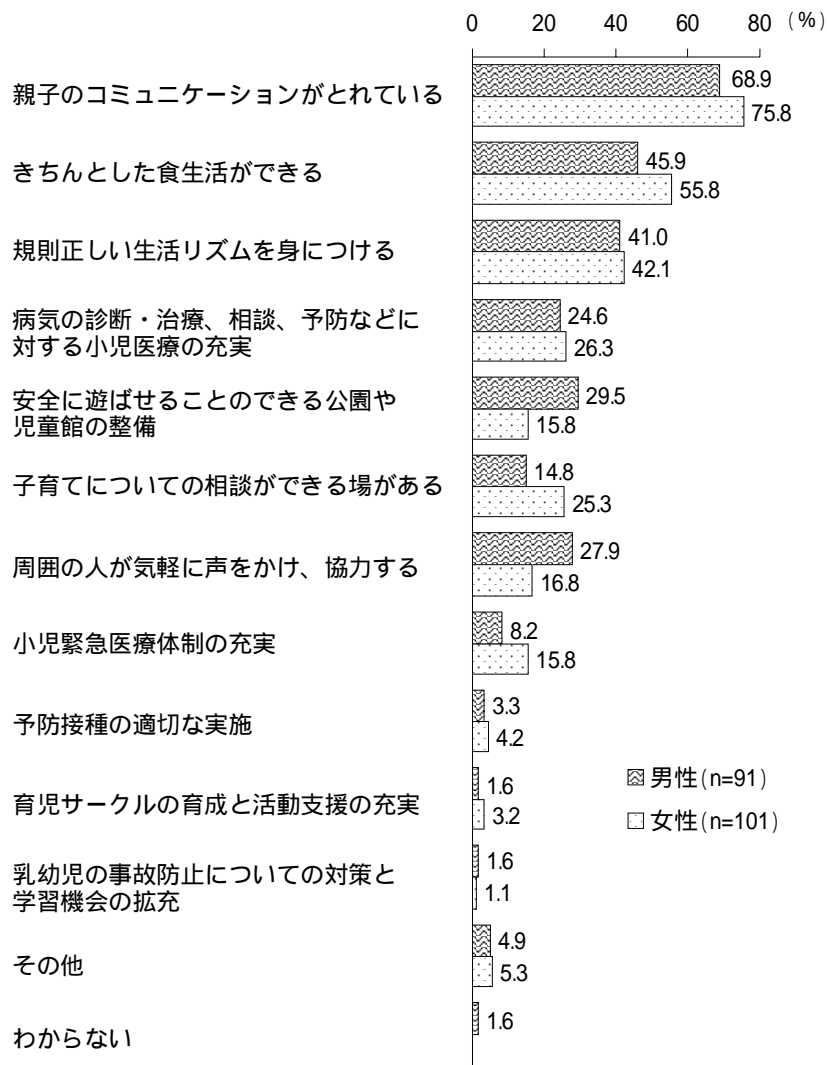
図5 - 1



子どもが健康に育つために必要なこととしては「親子のコミュニケーションがとれている」が72.8%で最も多く、以下「きちんとした食生活ができる」(51.9%)、「規則正しい生活リズムを身につける」(41.8%)の順で続いている。

性別で見ると、男女とも「親子のコミュニケーションがとれている」と「きちんとした食生活ができる」が多いが、とくに女性では、それぞれ75.8%、55.8%と多くなっている。

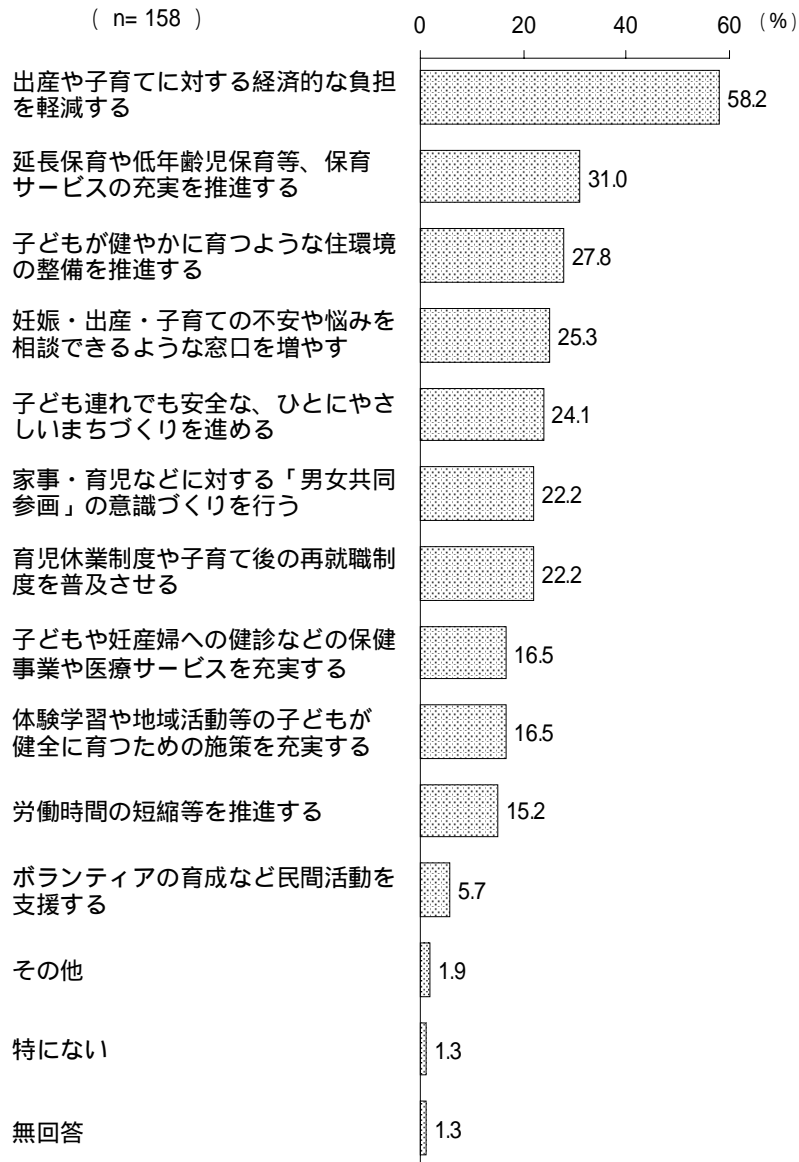
図5 - 2 性別 子どもが健康に育つことができるために大切なこと



5 - 2 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われること

問31 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。  
( は3つまで)

図5 - 3



子どもを健やかに生み育てるために必要なこととしては「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減する」が58.2%で最も多く、以下「延長保育や低年齢児保育等、保育サービスの充実を推進する」(31.0%)、「子どもが健やかに育つような住環境の整備を推進する」(27.8%)の順で続いている。

性別でみると、「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減する」(男性49.2%、女性64.2%)と「延長保育や低年齢児保育等、保育サービスの充実を推進する」(男性24.6%、女性33.7%)について、女性が男性を上回っている。一方、男性では「子どもが健やかに育つような住環境の整備を推進する」(34.4%)のほか、「労働時間の短縮等を推進する」(21.3%)を重視する傾向が女性に比べて強くなっている。

図5 - 4 性別 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われること

